



Sun Fire™ X4170、X4270、および X4275 サーバー Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストー ルガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7807-10
2009 年 3 月、Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Sun Studio、Solaris および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。

Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. オペレーティングシステムインストールの計画 1
 - サポート対象オペレーティングシステム 2
 - インストール済みの Solaris 10 イメージ 3
 - インストールの前提条件 4
 - インストール方法 6
 - コンソール出力 6
 - インストール用起動メディア 8
 - インストール先 10
 - 新規インストールの BIOS 設定の確認 11
 - 開始前のご注意 12
 - ▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集 12
2. SUSE Linux Enterprise Server のインストール 17
 - SLES インストールの作業マップ 18
 - ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール 19
 - 作業を開始する前に 19
 - ▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール 20

- PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール 22
 - 作業を開始する前に 23
 - ▼ ネットワーク PXE 起動を使用した SLES10 のインストール 23
 - SLES10 インストール後の作業 25
 - SLES10 オペレーティングシステムの更新 25
 - ▼ SLES10 オペレーティングシステムの更新 26
 - 追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール 27
 - Wake On LAN オプションの有効化 27
- 3. Red Hat Enterprise Linux のインストール 29
 - RHEL インストールの作業マップ 30
 - ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール 31
 - 作業を開始する前に 31
 - ▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール 32
 - ▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール 35
 - PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール 38
 - 作業を開始する前に 39
 - ▼ ネットワーク PXE 起動を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール 39
 - RHEL インストール後の作業 40
 - 追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール 41
 - Wake On LAN オプションの有効化 41
- 4. VMware のインストール 43
 - VMware サービスコンソール用のネットワークインタフェース接続の計画 44
 - VMware ESX または ESXi のインストール 45
 - 作業を開始する前に 46
 - ▼ VMware ESX または ESXi のインストール 46

- 5. Solaris 10 のインストール 49
 - Solaris 10 インストールの作業マップ 50
 - ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール 51
 - 作業を開始する前に 52
 - ▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール 52
 - PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール 58
 - 作業を開始する前に 59
 - ▼ ネットワーク経由での PXE ブートを使用した SLES 10 のインストール 59
 - Solaris インストール後の作業 65
 - 追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール 65
 - 重要な Solaris パッチのインストール 66
 - Wake On LAN オプションの有効化 66
 - RAID 管理ソフトウェアのインストール 66
- A. ネットワークインタフェースカードの PCI バス番号と物理ネットワークポートとの対応付け 67

索引 69

はじめに

『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』では、サーバーを構成して使用可能な状態にするための、オペレーティングシステムのインストール手順およびソフトウェアの初期構成手順について説明します。

このマニュアルは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (Authorized Service Provider、ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

製品のアップデート

Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー用にダウンロード可能な製品アップデートを入手するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.sun.com/download/index.jsp>

「Hardware Drivers」セクションで、「x64 Servers & Workstations」をクリックします。Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのサイトには、ファームウェアとドライバのアップデート、および CD-ROM .iso イメージが含まれています。

関連マニュアル

次の表に示す関連マニュアルは、次の URL からオンラインで入手可能です。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4170?l=ja>

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4270?l=ja>

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4275?l=ja>

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバードご使用にあたって』	サーバーに関する最新情報	820-7819	PDF HTML
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバードご使用の手引き』	サーバーのセットアップに関する基本的なインストール情報	820-7801	PDF 印刷版
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバード設置マニュアル』	サーバーのセットアップに関する詳細なインストール情報	820-7804	PDF HTML 印刷版 (オプション)
『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバード Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストール手順ガイド』	Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムのインストール手順	820-7807	PDF HTML
『Sun Fire X4140、X4270、および X4275 サーバード Windows オペレーティングシステムインストールガイド』	Windows Server オペレーティングシステムのインストール手順	820-7810	PDF HTML
『Linux および Windows 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』	Sun Installation Assistant を使用して、Windows および Linux オペレーティングシステムをインストールする手順	820-6352	PDF HTML
『Sun Fire X4170、X4270、and X4275 Servers Service Manual』	サーバーの保守およびアップグレードに関する情報と手順	820-5830	PDF HTML
『Sun x64 サーバード診断ガイド』	サーバーの診断とトラブルシューティングに関する情報	820-7813	PDF HTML
『x64 Servers Utilities Reference Manual』	x64 サーバードに共通のアプリケーションおよびユーティリティの使用法	820-1120	PDF HTML

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』	ILOM をサポートするサーバーおよびサーバーモジュールに共通の ILOM の機能とタスク	820-2698	PDF HTML
『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 補足マニュアル Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー』	Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーに固有の ILOM の情報	820-7816	PDF HTML
『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Safety and Compliance Guide』	サーバーに対するハードウェアの安全性および適合性の情報	820-5832	PDF
『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』	すべての Sun ハードウェアシステムに対するハードウェアの安全性および適合性についての多言語情報	816-7190	印刷版

これらのドキュメントの一部については、上記の Web サイトでフランス語、簡体字中国語、および日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
Sun のドキュメント	http://docs.sun.com
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、デバイスの構成などに使用する基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris[™] オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を実行します。 <code>% You have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	<code>% su</code> Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`</code>

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』、Part No. 820-7807-10。

第1章

オペレーティングシステムインストールの計画

この章では、Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを適切に計画するために必要な情報について説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- 2 ページの「サポート対象オペレーティングシステム」
- 4 ページの「インストールの前提条件」
- 6 ページの「インストール方法」
- 11 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」

サポート対象オペレーティングシステム

Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーは、次のオペレーティングシステムまたはそれ以降のリリースのインストールと使用をサポートします。

表 1-1 サポート対象オペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポート対象バージョン	詳細情報の参照先
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (R2 SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (R2 SP2、または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Standard Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Enterprise Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Datacenter Edition (32 ビットまたは 64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• 『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Windows Operating System Installation Guide』
Linux	<ul style="list-style-type: none">• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP2 (64 ビット)• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7 (32 ビットおよび 64 ビット)• RHEL 5.3 (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• 17 ページの第 2 章「SUSE Linux Enterprise Server のインストール」• 29 ページの第 3 章「Red Hat Enterprise Linux のインストール」
VMware	<ul style="list-style-type: none">• VMware ESX Server 3.5 Update 4• VMware ESXi 3.5 Update 4	<ul style="list-style-type: none">• 43 ページの第 4 章「VMware のインストール」
Solaris	<ul style="list-style-type: none">• Solaris 10 10/08	<ul style="list-style-type: none">• 49 ページの第 5 章「Solaris 10 のインストール」
OpenSolaris	<ul style="list-style-type: none">• OpenSolaris 2008.11	<ul style="list-style-type: none">• http://opensolaris.org/os/

OpenSolaris 2008 は、Solaris オペレーティングシステムに対する Sun のオープンソースプロジェクトに基づいています。Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーでは OpenSolaris 2008 がサポートされますが、このガイドではインストールおよび設定手順については説明しません。OpenSolaris 2008 の詳細情報およびインストール手順については、次の Web サイトを参照してください。

- <http://opensolaris.org/os/>
- <http://dlc.sun.com/osol/docs/content/2008.11/getstart/index.html>

インストール済みの Solaris 10 イメージ

Solaris 10 オペレーティングシステムのイメージを注文した場合、ハードディスクドライブにあらかじめインストールされて出荷されます。このドライブに別のオペレーティングシステムをインストールする必要がある場合は、次のいずれかを選択できます。

- ローカルドライブにパーティションを作成し、Solaris 10 OS のイメージを削除する
または
- ローカルドライブにパーティションを作成し、デュアルブートオペレーティングシステム構成をサポートする

このガイドで後述する Linux および Solaris オペレーティングシステムのインストール手順では、インストールプログラムのどの時点で、ドライブにパーティションを作成して Solaris 10 イメージを削除するかデュアルブートオペレーティングシステム構成をサポートするかを説明します。

注 – インストール済みの Solaris OS イメージを設定するには、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』の Solaris 10 OS のインストール済み OS に関する章を参照してください。

インストールの前提条件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の要件が満たされている必要があります。

表 1-2 OS のインストールで準備すべき事柄

要件	必須または任意	詳細情報の参照先
サーバーがラックに装着され電源が入っていることを確認する。	必須	<ul style="list-style-type: none">『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』
サーバーの SP ネットワーク管理ポートに対して IP アドレスが設定されていることを確認する。	必須	<ul style="list-style-type: none">『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』 または <ul style="list-style-type: none">『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』
インストールを実行するためのコンソールとメディアを選択し、インストール先を選択する。	必須	<ul style="list-style-type: none">6 ページの「インストール方法」
BIOS ユーティリティが出荷時のデフォルトに設定されていることを確認する。	推奨* *ローカルディスクドライブが OS のインストール先の場合	<ul style="list-style-type: none">11 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter、HBA) を使用して構成されている SAS または SATA ディスクドライブで RAID を設定する。HBA に付属のマニュアルを参照してください。	必須*	<ul style="list-style-type: none">サーバーへのディスクドライブの取り付け手順については、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』サーバーでのディスクドライブの取り外しおよび交換手順については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』『Sun Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』 (820-6350)

表 1-2 OS のインストールで準備すべき事柄 (続き)

要件	必須または任意	詳細情報の参照先
<p>オペレーティングシステムのベンダーからインストールマニュアルを入手する。</p> <p>注 - オペレーティングシステムベンダーのマニュアルを、このガイドのオペレーティングシステムに関する説明とあわせて参照してください。</p>	<p>推奨</p>	<p>次のオペレーティングシステムベンダーのマニュアル</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Solaris 10 10/08 Release and Installation Collection』 http://docs.sun.com/app/docs/pro/Solaris.10 • OpenSolaris 2008 のマニュアル http://dlc.sun.com/osol/docs/content/2008.11/getstart/index.html • Red Hat Enterprise Linux のマニュアルコレクション http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/ • SUSE Linux Enterprise Server のマニュアルコレクション http://www.novell.com/documentation/suse • VMware のマニュアルコレクション http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html
<p>サーバーに付属の「Tools and Drivers」CD が手元にあることを確認する。</p> <p>注 - OS のインストールに必要なデバイスドライバは、「Tools and Drivers」CD/DVD に収録されています。</p>	<p>必須</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの「Tools and Drivers」CD/DVD <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー用の「Tools and Drivers」CD/DVD のダウンロード版は、次の Web サイトで入手できます。 http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp http://www.sun.com/servers/x64/x4275/downloads.jsp
<p>『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーご使用にあたって』を参照して、サポート対象オペレーティングシステムソフトウェアおよびパッチの最新情報を確認する。</p>	<p>推奨</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーご使用にあたって』

インストール方法

使用しているインフラストラクチャーに最適なインストール方法を判断するために、次の各節で説明するオプションと要件について検討してください。

- 6 ページの「コンソール出力」
- 8 ページの「インストール用起動メディア」
- 10 ページの「インストール先」

コンソール出力

表 1-3 に、オペレーティングシステムのインストールに関する出力と入力を取り込むために使用できるコンソールを示します。

表 1-3 OS インストール実行のためのコンソールオプション

コンソール	説明	設定要件
ローカルコンソール	サーバーの SP にローカルコンソールを直接接続して、OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。	1. ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細は、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』の「ILOM サービスプロセッサへの初めての接続」を参照してください。
	ローカルコンソールには、次があります。	2. ILOM プロンプトで、ILOM のユーザー名とパスワードを入力します。
	<ul style="list-style-type: none">• シリアルコンソール• VGA コンソール、USB キーボードおよびマウスつき	3. シリアルコンソール接続の場合のみ、 start /SP/console と入力して、ホストのシリアルポートへの接続を確立します。 ビデオ出力が自動的にローカルコンソールに転送されます。
		サーバー SP への接続確立については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。

表 1-3 OS インストール実行のためのコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	設定要件
リモートコンソール	<p>遠隔コンソールからサーバー SP へのネットワーク接続を確立して、OS のインストールやサーバーの管理を行うことができます。</p> <p>遠隔コンソールには、次があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 • シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを設定します。 詳細は、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。 2. 遠隔コンソールとサーバー SP 間の接続を確立します。 <ul style="list-style-type: none"> • Web ベースのクライアント接続では、次の手順を実行します。(1) Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。(2) ILOM の Web インタフェースにログインします。(3) Sun ILOM 遠隔コンソールを起動してビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。(4) 「Device」メニューでデバイスリダイレクト (マウス、キーボードなど) を有効にします。 • SSH クライアント接続では、次の手順を実行します。(1) シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (<code>ssh root@ipaddress</code>)。 (2) ILOM コマンド行インタフェースにログインします。(3) <code>start /SP/console</code> と入力してシリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。 <p>ILOM SP へのリモート接続の確立や Sun ILOM 遠隔コンソールの使用については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。</p>

インストール用起動メディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたは遠隔のインストール用メディアソースを起動します。表 1-4 に、サポート対象メディアソースと各ソースの設定要件を示します。

表 1-4 OS インストール実行のための起動メディアオプション

インストール用メディア	説明	設定要件
ローカル起動メディア	<p>ローカル起動メディアを使用するには、サーバーに内蔵されたストレージデバイスまたはサーバーに接続されている外部ストレージデバイスが必要です。</p> <p>サポート対象 OS ローカル起動メディアソースには、次があります。</p> <ul style="list-style-type: none">CD/DVD-ROM インストールメディア、および、該当する場合はフロッピーディスクドライブメディア	<p>ローカル起動メディアを使用してインストールを行うには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 使用しているサーバーにストレージデバイスが内蔵されていない場合は、サーバーのフロントパネルにある USB コネクタを使用して適切なストレージデバイスを接続します。2. ローカルデバイスのサーバーへの接続方法については、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』の「サーバーの設定」を参照してください。 <p>注 – Sun Fire X4275 サーバーの場合、フロントパネルに CD/DVD-ROM ドライブも USB コネクタもないので、ILOM 遠隔コンソールを使用して、遠隔ストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトしてください手順については、この表の「遠隔起動メディア」を参照してください。</p>

表 1-4 OS インストール実行のための起動メディアオプション (続き)

インストール用メディア	説明	設定要件
遠隔起動メディア	<p>遠隔メディアを使用するには、ネットワーク経由でインストールを起動する必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされた起動ストレージデバイスから、または Pre-Boot eXecution environment (PXE) を使用してネットワーク経由でインストールをエクスポートするネットワーク接続された別のシステムから開始できます。</p> <p>サポート対象 OS 遠隔メディアソースには、次があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディア、および、該当する場合はフロッピーデバイスドライバメディア • CD/DVD-ROM ISO インストールイメージ、および、該当する場合はフロッピー ISO デバイスドライバメディア • 自動インストールイメージ (PXE 起動が必要) 	<p>リモートストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトするには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレージデバイスに起動メディアを挿入します。たとえば、次のように操作します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM の場合は、内蔵または外部 CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 • CD/DVD-ROM ISO イメージの場合は、ネットワーク共有された位置で ISO イメージを使えるようにします。 • デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合は、ネットワーク共有された位置または USB サムドライブで ISO イメージを使えるようにします。 • デバイスドライバフロッピーメディアの場合は、フロッピーメディアを外部のフロッピードライブに挿入します。 2. サーバーの ILOM SP への Web ベースクライアント接続を確立し、Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーションを起動します。 詳細は、表 1-3 で Web ベースクライアント接続の設定要件を参照してください。 3. Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーションの「Device」メニューで、起動メディアの位置を指定します。たとえば、次のように操作します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM 起動メディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。 • CD/DVD-ROM ISO イメージ起動メディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。 • フロッピーデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy」を選択します。 • フロッピーイメージデバイスドライバ起動メディアの場合は、「Floppy Image」を選択します。 <p>ILOM 遠隔コンソールについては、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。</p>

表 1-4 OS インストール実行のための起動メディアオプション (続き)

インストール用メディア	説明	設定要件
遠隔起動メディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると多くのシステムで設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、Pre-boot eXecution Environment (PXE) 技術を使用し、オペレーティングシステムがインストールされていないクライアントをリモートで起動して、自動インストールサーバーからオペレーティングシステムをインストールします。</p>	<p>PXE を使用してインストールを行うには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ネットワークサーバーを設定して、PXE 起動を使用してインストールをエクスポートできるようにします。 2. OS インストール用メディアを PXE 起動で使用できるようにします。 <p>自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次に示すような自動 OS インストールイメージを作成して用意しておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris JumpStart イメージ • RHEL KickStart イメージ • SLES AutoYaST イメージ • Windows RIS または WDS イメージ <p>インストール設定プロセスの自動化手順については、オペレーティングシステムベンダーのマニュアルを参照してください。</p> <p>3. インストール用メディアを起動するために、一時起動デバイスとして PXE 起動インタフェースカードを選択します。詳細は、このガイドで後述する PXE ベースのオペレーティングシステムインストール手順を参照してください。</p>

インストール先

表 1-5 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポート対象のインストール先を示します。

表 1-5 OS インストールのインストール先

インストール先	説明	設定要件	サポート対象 OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive, HDD) またはソリッドステートドライブ (Solid State Drive, SSD)	サーバーに取り付けられている HDD または SSD にオペレーティングシステムをインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"> • HDD または SSD がサーバーに正しく取り付けられ電源が入っていることを確認します。 <p>HDD や SSD の取り付けと電源投入については、サーバーに付属のインストールガイドまたはサーバスマニュアルを参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 表 1-1 に一覧されているすべてのオペレーティングシステム

表 1-5 OS インストールのインストール先 (続き)

インストール先	説明	設定要件	サポート対象 OS
ファイバチャネル (Fibre Channel, FC) ストレージエリアネットワーク (Storage Area Network, SAN) デバイス	ファイバチャネル PCI ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) が搭載されているサーバーでは、外部の FC ストレージデバイスにオペレーティングシステムをインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"> サーバーに FC PCI HBA が正しく取り付けられ動作していることを確認します。サーバーへの HBA の取り付けについては、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』を参照してください。 SAN が設置および構成され、ホストからストレージを認識できる必要があります。手順については、FC HBA に付属のマニュアルを参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 表 1-1 に一覧されているすべてのオペレーティングシステム
コンパクトフラッシュカード	システムにオプションのコンパクトフラッシュカードが取り付けられている場合は、コンパクトフラッシュカードに Linux または Solaris オペレーティングシステムをインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"> サーバーにコンパクトフラッシュカードオプションが正しく取り付けられていることを確認します。このオプションの取り付けについては、サーバーに付属のサービスマニュアルを参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 表 1-1 に一覧されているすべての Linux および Solaris オペレーティングシステム

新規インストールの BIOS 設定の確認

ハードディスクドライブに新しくインストールするすべてのオペレーティングシステムについて、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
- システム日付
- ブート順序

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。(F2 より) BIOS 設定ユーティリティで行ったすべての変更は、次に変更するまで永続的なものであることに注意してください。

注 - 必要に応じて、BIOS 起動時に F8 を押して、一時起動デバイスを指定できます。一時起動デバイスの設定は、現在のシステムブートでのみ有効です。一時起動デバイスからシステムをブートしたあとは、(BIOS で) F2 により指定した常時起動デバイスの設定が有効になります。

開始前のご注意

BIOS ユーティリティにアクセスする前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- サーバーがラックに装着され電源が入っていることを確認する。詳細は、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』を参照してください。
- サーバーにハードディスクドライブ (Hard drive disk、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細は、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[6 ページの「コンソール出力」](#)を参照してください。

▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web** インタフェースで、1 「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」 タブを選択します。「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
- ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
サーバーの電源の投入または切断については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』を参照してください。
- **ILOM CLI** からは、`reset /SYS` と入力します。

BIOS 画面が表示されます。



```

AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/19/08 15:40:21 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.30.00
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Genuine Intel(R) CPU @ 0000 @ 2.67GHz
Speed : 2.66 GHz Count : 16

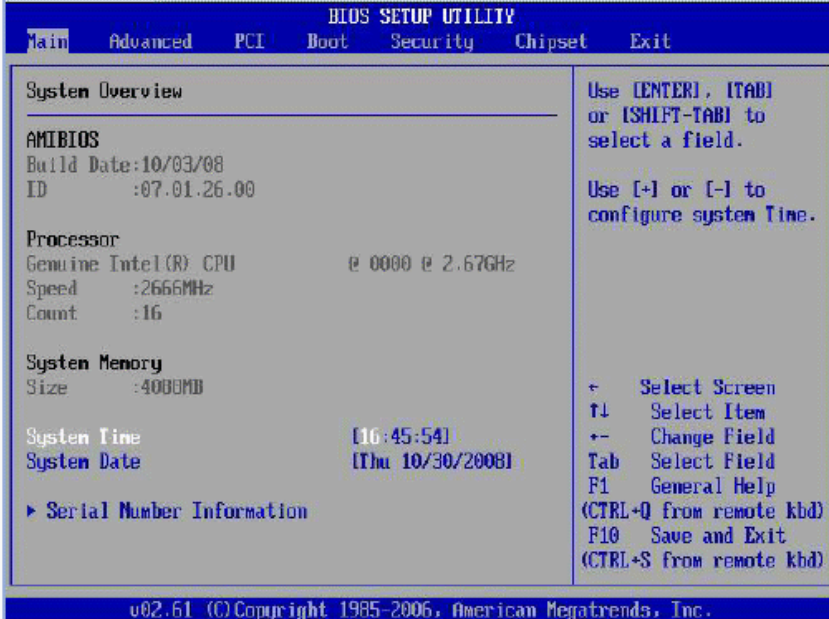
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
54-3047-009999-00101111-111908-TYLSBURG-3AB0N030-Y2KC 6B38

```

- BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。



```

BIOS SETUP UTILITY
Main Advanced PCI Boot Security Chipset Exit

System Overview
-----
AMIBIOS
Build Date:10/03/08
ID :07.01.26.00

Processor
Genuine Intel(R) CPU @ 0000 @ 2.67GHz
Speed :2666MHz
Count :16

System Memory
Size :4096MB

System Time [16:45:54]
System Date [Thu 10/30/2008]

> Serial Number Information

Use CENTER, [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.

Use [+] or [-] to configure system time.

← Select Screen
↑↓ Select Item
←→ Change Field
Tab Select Field
F1 General Help
(CTRL+Q from remote kbd)
F10 Save and Exit
(CTRL+S from remote kbd)

v02.61 (C) Copyright 1985-2006, American Megatrends, Inc.

```

3. 出荷時のデフォルトに設定するために、次の手順に従います。
 - a. F9 キーを押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

「OK」を選択してこの操作を続行するか、「キャンセル (CANCEL)」を選択して操作を取り消すかを求めるメッセージが表示されます。
 - b. メッセージで、「OK」を強調表示して、Enter キーを押します。

BIOS 設定ユーティリティーの画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値がカーソルで強調表示されます。
4. BIOS 設定ユーティリティーで、次の手順に従いシステムの時刻または日付に関連する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。

上矢印キーまたは下矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を切り替えます。
 - b. 強調表示されているフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) キーで表示されている値を 1 つずつ増やします。
 - マイナス (-) キーで表示されている値を 1 つずつ減らします
 - Enter キーでカーソルを次の値フィールドに移動します。
5. 起動設定にアクセスするには、「起動 (Boot)」メニューを選択します。



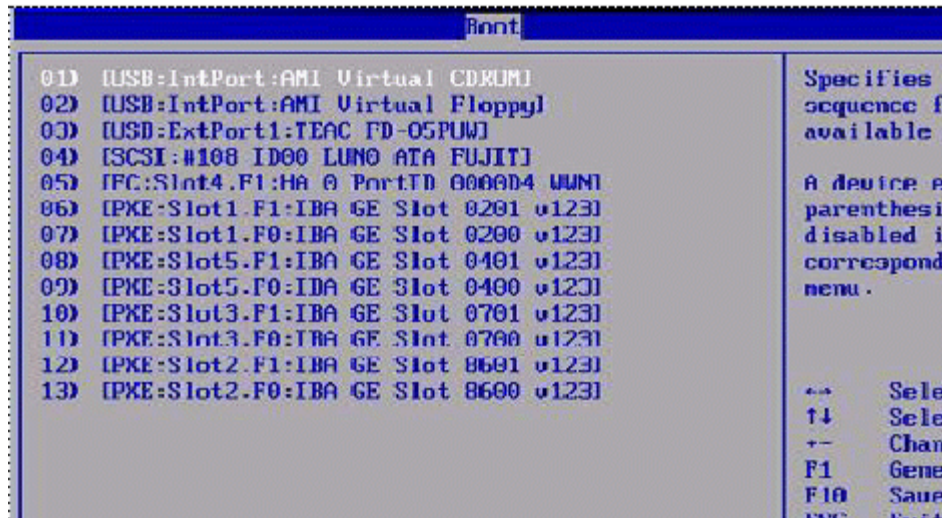
「起動設定 (Boot Settings)」メニューが表示されます。

6. 「起動設定 (Boot Settings)」メニューで、下矢印キーを使用して「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」を選択し、Enter キーを押します。



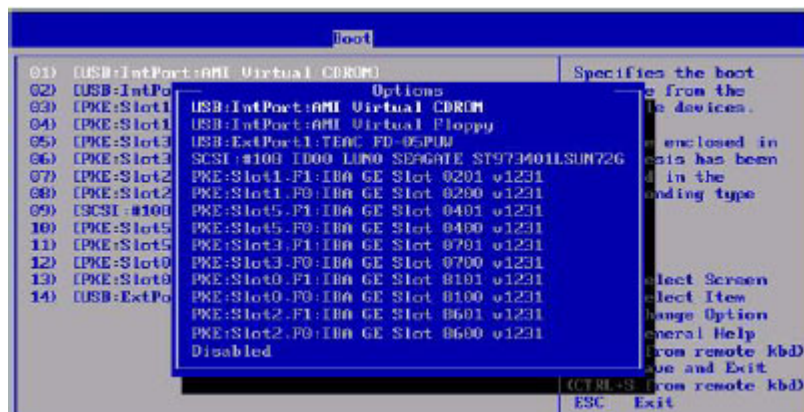
「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューが表示され、認識されている起動デバイスの優先順位が示されます。

画面に表示される起動デバイスの順序は、次の画面例とは異なる場合があります。



リストの最初のデバイスが、起動の優先順位がもっとも高くなります。

7. 「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューで次の操作を行い、リストの最初の起動デバイス項目を編集します。
 - a. 上矢印キーと下矢印キーを使用して、リストの最初の項目を選び、Enter キーを押します。
 - b. 「オプション (Options)」画面で、上矢印キーと下矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し Enter キーを押します。
- 画面に示される起動オプションは、次の画面例とは異なる場合があります。



注 - 「起動 (Boot)」メニューおよび「オプション (Options)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスの種類、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式を取ります。

注 - 変更する各デバイス項目に対して手順 7a および 7b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスの起動順を変更できます。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 キーを押します。

注 - Sun ILOM 遠隔コンソールを使用している場合、F10 キーはローカル OS にトラップされます。このため、遠隔コンソールの上部にある「キーボード (Keyboard)」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

または、「終了 (Exit)」メニューで「保存 (Save)」を選択して、変更を保存し BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。

変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。

9. メッセージダイアログで、「OK」を選択して、Enter キーを押します。

第2章

SUSE Linux Enterprise Server のインストール

この章では、使用しているサーバーへの x86 (64 ビット) 用 SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 (または以降のリリース) のインストールについて説明します。

注 – 使用しているサーバーに SUSE Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、Sun Installation Assistant (SIA) の使用を強くお勧めします。SIA は必要に応じてデバイスドライバを提供してインストールします。オペレーティングシステムのインストールでの SIA の使用については、『Linux および Windows 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』(820-6532) の説明に従ってください。

この章では、次の項目について説明します。

- 18 ページの「SLES インストールの作業マップ」
- 19 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール」
- 22 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」
- 25 ページの「SLES10 インストール後の作業」

SLES インストールの作業マップ

表 2-1 を参照して、一連の作業として定義されているインストールプロセスをあらかじめ確認します。この表では、必要な作業を特定し、それを説明して、作業実行手順の参照先を示します。

表 2-1 SLES 10 インストールの作業マップ

手順	作業	説明	参照先
1	インストールで準備すべき事柄を確認する。	使用しているサーバーへのオペレーティングシステムインストールについて該当する要件がすべて満たされていることを確認します。	• 4 ページの「インストールの前提条件」
2	インストール方法を選択する。	使用しているインフラストラクチャーの要件を満たすインストール方法を評価して選択します。	• 6 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認する。	オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	• 11 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	SLES のインストール用メディアを入手する。	SLES OS CD/DVD メディアとマニュアルは、Sun または Novell から購入できます。	SLES のメディアは次の Web サイトでダウンロードまたは注文できます。 http://www.novell.com
5	SLES OS のインストールを実行する。	この章のインストール手順では、インストール用メディアを起動してドライブにパーティションを作成するための最初の手順について説明します。 SLES インストールの詳細情報については、次の Novell の Web サイトにある SUSE Linux Enterprise Server マニュアルコレクションを参照してください。 http://www.novell.com/documentation/suse	• 19 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール」 • 22 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」
6	SLES を登録して自動アップデートを有効にする (推奨)。	SLES のインストール用メディアに SLES OS の最新バージョンが収録されていない場合は、この章の説明に従って SLES オペレーティングシステムを更新します。	• 25 ページの「SLES10 オペレーティングシステムの更新」
7	インストール後、必要に応じて、ドライバをインストールする。	使用しているシステム上のハードウェアをサポートするのに必要なデバイスドライバが SLES オペレーティングシステムに含まれていない場合は、デバイスドライバを追加でインストールします。	• 27 ページの「追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール」

ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたは遠隔メディアから SLES 10 (SLES10) オペレーティングシステムを起動する方法を説明します。ここでは、次のいずれかのソースから SLES10 のインストール用メディアをすでに起動していることを前提にしています。

- SLES10-SP2 (または以降のリリース) の CD または DVD セット (内蔵または外部 CD/DVD)
- SLES10-SP2 (または以降のリリース) の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 - インストール用メディアを PXE 環境から起動する場合の起動手順については [22 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」](#) を参照してください。

作業を開始する前に

インストール開始の前に、次の要件が満たされていなければなりません。

- このオペレーティングシステムをインストールするために準備すべき事柄がすべて満たされていなければなりません。これらの準備すべき事柄については、[4 ページの表 1-2 「OS のインストールで準備すべき事柄」](#) を参照してください。
- インストール開始の前に、インストール方法 (たとえば、コンソール、起動メディア、インストール先) を選択して確立しておく必要があります。これらの設定の要件については、[6 ページの「インストール方法」](#) を参照してください。

次に説明する手順は、インストール用メディアを起動し SLES インストールプログラムを立ち上げるための最初の手順です。SLES10-SP2 インストールの詳細情報については、次の Novell の Web サイトにある SUSE Linux Enterprise Server マニュアルコレクションを参照してください。 <http://www.novell.com/documentation/>

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細については、[25 ページの「SLES10 インストール後の作業」](#) を参照してください。

▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール

1. インストール用メディアを起動できることを確認します。

注 – Sun Fire X4275 サーバーの場合、フロントパネルに CD/DVD-ROM ドライブも USB コネクタもないので、ILOM 遠隔コンソールを使用して、遠隔ストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトしてください。手順については、8 ページの表 1-4 「OS インストール実行のための起動メディアオプション」の「遠隔起動メディア」を参照してください。

- **Distribution CD/DVD を使用する**場合。ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに、SLES10 の起動ディスク (「1」のラベルが付いた CD または DVD) を挿入します。
- **ISO イメージを使用する**場合。ISO イメージを使用できることと、起動ディスクイメージ (「1」のラベルが付いた CD または DVD) が Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーションの「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」で選択されていることを確認します。

インストール用メディアの設定方法については、8 ページの表 1-4 「OS インストール実行のための起動メディアオプション」を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェースを使用する**場合、「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーを使用する**場合、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI を使用する**場合、次のように入力します。
`reset /SYS`

BIOS 画面が表示されます。

注 – 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で F8 キーを押して、SLES のインストールで一時的に使用する起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。

4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。
「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスの種類、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式を取ります。
数秒後、SUSE の初期起動画面が表示されます。
5. 最初の SUSE 起動インストール画面で、Tab キーを使用して、2 番目のオプション「インストール (Installation)」を選択し、Enter キーを押します。
このオプションを選択すると、標準的な対話式のインストールプロセスに進みます。
「言語 (Language)」画面が表示されます。

注 - 「言語 (Language)」画面の表示には、数分かかることがあります。

6. 「言語 (Language)」画面で、適切な言語オプションを選択して、「次へ (Next)」をクリックします。
「使用許諾契約 (License Agreement)」画面が表示されます。
7. 「SUSE Linux Novell 使用許諾契約 (SUSE Linux Novell License Agreement)」画面で、「同意する (Accept)」をクリックします。
SUSE YaST インストールプログラムが初期化されます。YaST のグラフィカルインストール画面が表示されます。
AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示されることがあります。
8. 「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示される場合は、使用する言語を選択してください。
AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示されることがあります。
9. 「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示される場合は、「新規インストール (New Installation)」を選択して、「OK」をクリックし次に進みます。
システムのハードウェアが検出されます。「YaST インストール設定 (YaST Installation Settings)」画面が表示されます。
10. 「YaST インストール設定 (YaST Installation Settings)」画面で、次の手順に従います。
 - a. 「パーティションの作成 (Partitioning)」オプションをクリックします。
 - b. 「カスタムパーティションの作成 (Create Custom Partition)」を選択して、「OK」をクリックします。
 - c. 適切な構成になるように、ディスクにパーティションを作成します。
詳細については、YaST のパーティション作成に関する説明を参照してください。

注 - ディスクが Solaris OS インストール済みである場合は、ディスクにパーティションを作成して Solaris を削除するか、Solaris を削除せずにディスクにパーティションを作成してデュアルブートオペレーティングシステムをサポートするかを選択できます。

11. SLES OS のすべてのファイルがインストールされシステムが再起動するまで、インストールの基本設定を続行します。
12. インストールの基本設定が完了したら、YaST のマニュアルを参照して、次の作業を実行します。
 - a. 使用するアカウントのパスワードを作成します。
 - b. インターネットアクセスとネットワーク設定を構成してテストします。
 - c. OS を登録して、利用できるアップデートをオペレーティングシステムにダウンロードします。

または、25 ページの「SLES10 オペレーティングシステムの更新」を参照して SLES10 OS を手動で更新します。
13. この章で後述するインストール後の作業を確認し、必要な場合は実行します。

25 ページの「SLES10 インストール後の作業」を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール

ここでは、PXE ネットワーク環境から SLES10 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストール用メディアをすでに起動していることを前提にしています。

- SLES10-SP2 (または以降のリリース) の CD または DVD セット (内蔵または外部 CD/DVD)
- SLES10-SP2 (または以降のリリース) の ISO DVD イメージまたは AutoYaST イメージ (ネットワークリポジトリ)

AutoYaST を使用すると、複数のシステムに SLES オペレーティングシステムをインストールできます。AutoYaST を使用した自動インストールの準備方法については、次の Web サイトにある Novell SUSE のマニュアルコレクションを参照してください。

<http://www.novell.com/documentation/suse>

作業を開始する前に

PXE ネットワーク起動環境から SLES10 のインストールを開始する前に、次の要件が満たされていないければなりません。

- インストールで AutoYaST イメージを使用する場合は、次の作業を行う必要があります。
 - AutoYaST プロファイルを作成します。

SUSE Linux Enterprise 10 マニュアルの AutoYaST インストール手順に従います。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストール用メディアを起動する場合は、次の作業を行う必要があります。
 - ネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
 - PXE 起動に必要な、TFTP サーバー上のファイルを設定します。
 - PXE 構成から起動するように Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

SUSE Linux Enterprise 10 のマニュアルにある、ネットワーク経由での SUSE メディア起動のための設定手順に従います。

この手順の完了後、[25 ページの「SLES10 インストール後の作業」](#)の作業を実行しなければなりません。

▼ ネットワーク PXE 起動を使用した SLES10 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、SLES インストール用メディアが PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように入力します。
 - **ILOM Web インタフェースを使用する場合**、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
 - **ローカルサーバーを使用する場合**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **サーバー SP の ILOM CLI を使用する場合**、次のように入力します。
`reset /SYS`

BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用できる起動デバイスが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、使用しているネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されている PXE インストール起動デバイス (物理ポート) を選択して、Enter キーを押します。

ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されます。タイムアウトしてインストールカーネルの読み込みが開始されるまで 5 秒待ちます。

「SUSE Linux Novell 使用許諾契約 (SUSE Linux Novell License Agreement)」画面が表示されます。
5. 「SUSE Linux Novell 使用許諾契約 (SUSE Linux Novell License Agreement)」画面で、「同意する (Accept)」をクリックします。

SUSE YaST インストールプログラムが初期化されます。YaST のグラフィカルインストール画面が表示されます。

AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示されることがあります。
6. 「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示される場合は、使用する言語を選択してください。

AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示されることがあります。
7. 「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示される場合は、「新規インストール (New Installation)」を選択して、「OK」をクリックして次に進みます。

システムのハードウェアが検出されます。「YaST インストール設定 (YaST Installation Settings)」画面が表示されます。
8. 「YaST インストール設定 (YaST Installation Settings)」画面で、次の手順に従います。
 - a. 「パーティションの作成 (Partitioning)」オプションをクリックします。
 - b. 「カスタムパーティションの作成 (Create Custom Partition)」を選択して、「OK」をクリックします。
 - c. 適切な構成になるように、ディスクにパーティションを作成します。

詳細については、YaST のパーティション作成に関する説明を参照してください。

注 – ディスクが Solaris OS インストール済みである場合は、ディスクにパーティションを作成して Solaris を削除するか、Solaris を削除せずにディスクにパーティションを作成してデュアルブートオペレーティングシステムをサポートするかを選択できます。

9. SLES OS のすべてのファイルがインストールされシステムが再起動するまで、インストールの基本設定を続行します。
10. インストールの基本設定が完了したら、YaST のマニュアルを参照して、次の作業を実行します。
 - a. 使用するアカウントのパスワードを作成します。
 - b. インターネットアクセスとネットワーク設定を構成してテストします。
 - c. OS を登録して、利用できるアップデートをオペレーティングシステムにダウンロードします。

または、[25 ページの「SLES10 オペレーティングシステムの更新」](#)を参照して SLES OS を手動で更新します。
11. この章で後述するインストール後の作業を確認し、必要な場合は実行します。

[25 ページの「SLES10 インストール後の作業」](#)を参照してください。

SLES10 インストール後の作業

SLES10のインストールが完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要な場合は、使用しているシステムに該当する作業を実行します。

- [25 ページの「SLES10 オペレーティングシステムの更新」](#)
- [27 ページの「追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール」](#)
- [27 ページの「Wake On LAN オプションの有効化」](#)

SLES10 オペレーティングシステムの更新

SLES10 OS のインストール用メディアに、SLES10 OS の最新バージョンが収録されていないことがあります。次の手順では、使用しているサーバーで SLES10 OS を更新する方法を説明します。

▼ SLES10 オペレーティングシステムの更新

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

```
# you
```

なお、YaST は、テキストモードとグラフィカルモードの両方で動作します。ここでの指示は、両方に適用されます。

3. 使用しているサーバーがネットワークファイアウォールに保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合には、まず正しいプロキシ情報で YaST を設定する必要があります。
 - a. 左にある「ネットワークサービス (Network Services)」タブを選択してから、右側の「プロキシ (Proxy)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシ URL を入力します。

注 – ネットワーク HTTP プロキシを介してオンラインアップデートサービスが正常に機能するためには、次の追加設定手順を実行する必要があります。

- b. YaST コーティリティーを終了して、以下のコマンドを実行します。

```
rug set-prefs proxy-url Proxy URL
```

ここで、*Proxy_URL* は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です (たとえば `http://proxy.yourdomain:3128/`)。

- c. コマンドの実行の成功後に、YaST を再度起動します。

4. Novell Customer Center に登録します。

注 – Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 10 製品のアクティベーションコードが必要です。

- a. 左側の「ソフトウェア (Software)」タブを選択します。
 - b. 「Novell Customer Center の設定 (Novell Customer Center Configuration)」を選択して、指示に従います。
5. 登録後、「オンラインアップデート (Online Update)」タブを選択して、ソフトウェアの更新を実行します。

追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール

表 2-2 では、使用しているシステムにインストールできるシステムデバイスドライバを示します。この表を参照して、使用しているシステムにインストールする必要があるドライバがあるかどうかを判断します。

表 2-2 追加する SLES ドライバ

ハードウェアデバイス	必要なデバイスドライバ	指示書	ドライバをダウンロードするサイト
Sun Dual-Port 4X PCI-Express Infiniband Host Channel Adapter X1236A-Z (PCIe)	Mellanox: Infiniband ドライバ	インストール手順については、Readme ファイルを参照してください。	http://www.mellanox.com/content/pages.php?pg=products_dyn&product_family=26&menu_section=34
Sun PCI Express 4x Infiniband Adapter X4217A-Z (PCIe)	Mellanox: Infiniband ドライバ	Readme ファイルは、Mellanox のドライバダウンロードサイトで入手できます。	

Wake On LAN オプションの有効化

オペレーティングシステムのインストール後、BIOS 設定ユーティリティーで Wake On LAN (WOL) オプションを使用可能にすることができます。この機能により、ネットワーク上の別の位置からサーバーに電源を入れることができます。WOL を使用可能にするための要件については、『Sun Fire X4170, X4275, and X4275 Servers Service Manual』の「Wake On LAN」を参照してください。

第3章

Red Hat Enterprise Linux のインストール

この章では、次のオペレーティングシステムのインストールについて説明します。

- x86 (32 ビットおよび 64 ビット) 用 Red Hat Enterprise Linux v.4.7 (または以降のリリース)
- x86 (64 ビット) 用 Red Hat Enterprise Linux v.5.3 (または以降のリリース)

注 – 使用しているサーバーに Red Hat Linux オペレーティングシステムをインストールする場合は、Sun Installation Assistant (SIA) の使用を強くお勧めします。SIA は必要に応じてデバイスドライバを提供してインストールします。オペレーティングシステムのインストールでの SIA の使用については、『Linux および Windows 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』(820-6352) の説明に従ってください。

この章では、次の項目について説明します。

- [30 ページの「RHEL インストールの作業マップ」](#)
- [31 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」](#)
- [38 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」](#)
- [40 ページの「RHEL インストール後の作業」](#)

RHEL インストールの作業マップ

表 3-1 を参照して、一連の作業として定義されているインストールプロセスをあらかじめ確認します。この表では、必要な作業を特定し、それを説明して、作業実行手順の参照先を示します。

表 3-1 RHEL インストールの作業マップ

手順	作業	説明	参照先
1	インストールで準備すべき事柄を確認する。	使用しているサーバーへのオペレーティングシステムインストールについて該当する要件がすべて満たされていることを確認します。	• 4 ページの「インストールの前提条件」
2	インストール方法を選択する。	使用しているインフラストラクチャーの要件を満たすインストール方法を評価して選択します。	• 6 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認する。	オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	• 11 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	RHEL のインストール用メディアを入手する。	RHEL OS CD/DVD メディアとマニュアルは、Sun または Red Hat から購入できます。	RHEL のメディアは次の Web サイトでダウンロードまたは注文できます。 http://www.redhat.com
5	RHEL OS のインストールを実行する。	この章のインストール手順では、インストール用メディアを起動して RHEL インストールプログラムを立ち上げるための最初の手順について説明します。 RHEL インストールの詳細情報については、次の Web サイトにある RHEL マニュアルコレクションを参照してください。 http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/	• 31 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」 • 38 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」
6	RHEL を登録して自動アップデートを有効にする(推奨)。	RHEL のインストール後、システムを登録し Red Hat との契約を有効にして、ソフトウェアの自動アップデートを取得できるようにします。	• Red Hat Enterprise Linux マニュアルコレクション: http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/
7	インストール後、必要に応じて、ドライバをインストールする。	使用しているシステムをサポートするのに必要なデバイスドライバが RHEL オペレーティングシステムに含まれていない場合は、デバイスドライバを追加でインストールします。	• 41 ページの「追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール」

ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたは遠隔メディアから RHEL4 または RHEL5 オペレーティングシステムのインストールを開始する方法を説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL のインストール用メディアをすでに起動していることを前提にしています。

- RHEL4 または RHEL5 の CD または DVD セット (内蔵または外部 CD/DVD)
- RHEL4 または RHEL5 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – インストール用メディアを PXE 環境から起動する場合の手順については [38 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」](#) を参照してください。

注 – RHEL4 CD を Sun から提供された場合は、インストール完了後すぐに RHEL4 オペレーティングシステムを Update 7 にアップグレードしなければならないことがあります。

ローカルメディアまたは遠隔メディアから RHEL OS をインストールするには、次の手順を参照してください。

- [32 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール」](#)
- [35 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール」](#)

作業を開始する前に

インストール開始の前に、次の要件が満たされていなければなりません。

- オペレーティングシステムをインストールするために準備すべき事柄がすべて満たされていなければなりません。これらの準備すべき事柄については、[4 ページの表 1-2「OS のインストールで準備すべき事柄」](#) を参照してください。
- インストール開始の前に、インストール方法 (たとえば、コンソール、起動メディア、インストール先) を選択して確立しておく必要があります。これらの設定の要件については、[6 ページの「インストール方法」](#) を参照してください。

次に説明する手順は、インストール用メディアを起動しドライブのパーティションを作成するための最初の手順です。RHEL インストールの詳細情報については、次の Web サイトにある RHEL のマニュアルコレクションを参照してください。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細については、40 ページの「RHEL インストール後の作業」を参照してください。

▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール

1. インストール用メディアを起動できることを確認します。

注 – Sun Fire X4275 サーバーの場合、フロントパネルに CD/DVD-ROM ドライブも USB コネクタもないので、ILOM 遠隔コンソールを使用して、遠隔ストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトしてください。手順については、8 ページの表 1-4 「OS インストール実行のための起動メディアオプション」の「遠隔起動メディア」を参照してください。

- **Distribution CD/DVD を使用する**場合。ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに Red Hat 4.0 ディストリビューションメディアの起動ディスク（「1」のラベルが付いた CD または単一の DVD）を挿入します。
- **ISO イメージを使用する**場合。ISO イメージを使用できることと、起動ディスクイメージ（「1」のラベルが付いた CD または DVD）が Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーションの「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」で選択されていることを確認します。

インストール用メディアの設定方法については、8 ページの表 1-4 「OS インストール実行のための起動メディアオプション」を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェースを使用する**場合、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーを使用する**場合、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して（約 1 秒）サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。

- サーバー SP の ILOM CLI を使用する場合は、次のように入力します。
`reset /SYS`

BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で F8 キーを押して、RHEL のインストールで一時的に使用する起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください(Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。
「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスの種類、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式を取ります。
数秒後、Red Hat インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。
5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して標準的な対話式インストールに進みます。
または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

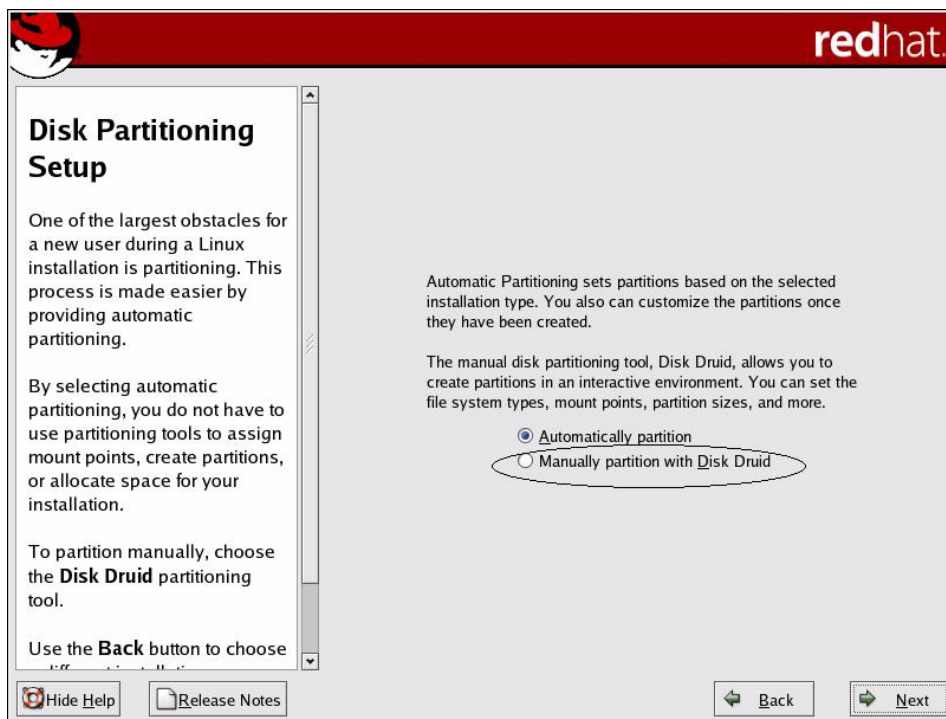
```
boot: linux text
```
6. 「CD メディアのテスト (Testing CD Media)」画面で、Tab キーを押して「スキップ (Skip)」を選択し、Enter キーを押します。

注 - インストールの初期設定で問題が発生する場合は、「OK」を選択して、インストール用 CD メディアをテストしなければならないことがあります。

Red Hat Enterprise Linux システムのインストーラに当たる Anaconda 実行についてのメッセージが表示されます。数秒後、Red Hat のスプラッシュ画面が表示され、「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。

7. 「Red Hat へようこそ (Red Hat Welcome)」画面で、「次へ (Next)」をクリックしてインストールに進みます。
「言語 (Language)」画面が表示されます。
8. 「言語 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「次へ (Next)」をクリックします。
「キーボード設定 (Keyboard Configuration)」画面が表示されます。

9. 「キーボード設定 (Keyboard Configuration)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「次へ (Next)」をクリックします。
10. 「ディスクパーティション設定 (Disk Partitioning Setup)」画面が表示されたら、次の手順に従います。
 - a. 「Disk Druid を使用して手動でパーティションを作成する (Manually Partition with Disk Druid)」ラジオボタンを選択して、「次へ (Next)」をクリックします。



- b. Red Hat のディスクパーティション作成画面に示される説明を参照して、ディスクにパーティションを作成します。

注 – ディスクが Solaris OS インストール済みである場合は、ディスクにパーティションを作成して Solaris を削除するか、Solaris を削除せずにディスクにパーティションを作成してデュアルブートオペレーティングシステムをサポートするかを選択できます。

11. 画面上の指示と Red Hat のマニュアルに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。

12. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. 使用しているシステムで自動アップデートを設定します。
詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - b. 必要な場合は、
RHEL4.7 用の最新の訂正およびバグ修正をダウンロードしてインストールします。
詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - c. この章で後述するインストール後の作業を確認し、必要な場合は実行します。
[40 ページの「RHEL インストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール

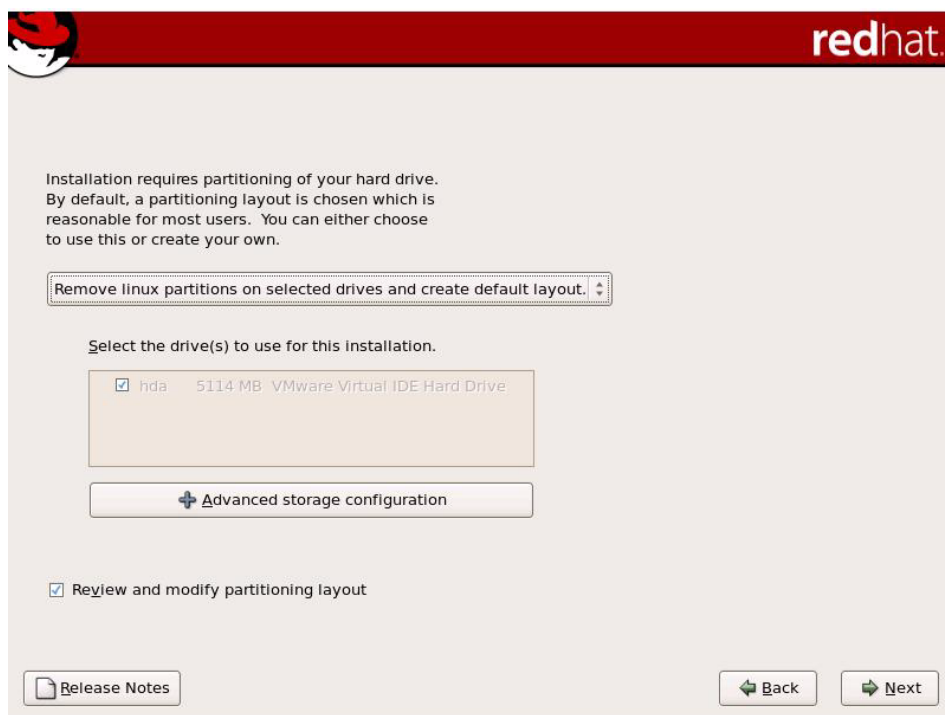
1. インストール用メディアを起動できることを確認します。
 - **Distribution CD/DVD を使用する**場合。ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに Red Hat 5.0 ディストリビューションメディアの起動ディスク (「1」のラベルが付いた CD または単一の DVD) を挿入します。
 - **ISO イメージを使用**する場合。ISO イメージを使用できることと、起動ディスクイメージ (「1」のラベルが付いた CD または DVD) が ILOM 遠隔コンソールアプリケーションの「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」で選択されていることを確認します。
インストール用メディアの設定方法については、[8 ページの表 1-4 「OS インストール実行のための起動メディアオプション」](#)を参照してください。
2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように入力します。
 - **ILOM Web インタフェースを使用**する場合、「Remote Control」--> 「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
 - **ローカルサーバーを使用**する場合、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
 - **サーバー SP の ILOM CLI を使用**する場合、次のように入力します。
`reset /SYS`BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で F8 キーを押して、RHEL のインストールで一時的に使用する起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください(Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして「外部 (external)」または「仮想 (virtual)」CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。
「起動 (Boot)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスの種類、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式を取ります。
数秒後、RHEL5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分に、説明、ファンクションキー、およびブートプロンプトが表示されます。
5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して標準的な対話式インストールに移ります。
または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```
6. 「言語 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「OK」をクリックします。
「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面が表示されます。
7. 「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「OK」をクリックします。
「インストール方法 (Installation Method)」画面が表示されます。
8. 「インストール方法 (Installation Method)」画面で、適切なインストール方法 (「ローカル CD-ROM (Local CDRom)」または「NFS イメージ (NFS Image)」) を選択して、「OK」をクリックします。
「CD が見つかりました (CD Found)」画面が表示されます。
9. 「CD が見つかりました (CD Found)」画面で、「スキップ (Skip)」をクリックします。
「Red Hat Enterprise Linux 5」画面が表示されます。
10. 「Red Hat Enterprise 5」画面で、「次へ (Next)」をクリックします。
「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログが表示されます。

11. 「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログで、「インストール番号」を入力するか、「インストール番号の入力を省略する (Skip entering installation number)」をクリックして、「OK」をクリックします。
「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面が表示されます。
12. 「ディスクパーティション設定 (Disk Partition Setup)」画面で、次の手順に従います。
 - a. 「選択したドライブ上の Linux パーティションを削除してデフォルトレイアウトを作成する (Remove linux partition on selected drives and create default layout)」オプションを選択するか、Disk Druid の「カスタムレイアウトの作成 (Create custom layout)」オプションを使用して手動でディスクにパーティションを作成し、「次へ (Next)」をクリックします。



- b. Red Hat のディスクパーティション作成画面に表示される説明を参照して、ディスクにパーティションを作成します。

注 - ディスクが Solaris OS インストール済みである場合は、ディスクにパーティションを作成して Solaris を削除するか、Solaris を削除せずにディスクにパーティションを作成してデュアルブートオペレーティングシステムをサポートするかを選択できます。

13. 画面上の指示と Red Hat のマニュアルに従って、Red Hat インストールの基本設定を続行します。
14. Red Hat インストールの基本設定が完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. 使用しているシステムで自動アップデートを設定します。
詳細は、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - b. 必要な場合は、RHEL5.3 用の最新の訂正およびバグ修正をダウンロードしてインストールします。
詳細については、Red Hat のマニュアルを参照してください。
 - c. この章で後述するインストール後の作業を確認し、必要な場合は実行します。
[40 ページの「RHEL インストール後の作業」](#)を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

ここでは、PXE ネットワーク環境から RHEL4 または RHEL5 を起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストール用メディアをすでに起動していることを前提にしています。

- RHEL4 または RHEL5 の CD または DVD セット (内蔵または外部 CD/DVD)
- RHEL4 または RHEL5 の ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – KickStart は、Red Hat の自動インストール方法です。これを使用すると、一部または全部のインストール設定と、通常は標準的な Red Hat インストールで提供される構成パラメータの設定を含む単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは単一のネットワークサーバー上に配置し、複数のシステムからインストール用に読み取ります。

注 – RHEL4 CD を Sun から提供された場合は、インストール完了後すぐに RHEL4 オペレーティングシステムを Update 7 にアップグレードしなければならないことがあります。

作業を開始する前に

PXE を使用した RHEL インストールを開始する前に、次の要件が満たされていなければなりません。

- インストールで KickStart イメージを使用する場合は、次の作業を行う必要があります。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含む起動メディアを作成するか、またはネットワーク上で KickStart ファイルを使用できるようにします。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の KickStart インストールについての説明に従ってください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストール用メディアを起動する場合は、次の作業を行う必要があります。
 - ネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを、インストールツリーをエクスポートできるように設定します。
 - PXE 起動に必要な、TFTP サーバー上のファイルを設定します。
 - PXE 構成から起動するように Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を設定します。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の PXE ネットワークインストールに関する説明に従ってください。

▼ ネットワーク PXE 起動を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、RHEL インストール用メディアが PXE 起動で使用できることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように入力します。
 - ILOM Web インタフェースを使用する場合、「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
 - ローカルサーバーを使用する場合、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。

- サーバー SP の ILOM CLI を使用する場合、次のように入力します。
`reset /SYS`

BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示され、使用できる起動デバイスが表示されます。
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、使用している PXE ネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されているネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーが読み込まれ、ブートプロンプトが表示されます。数秒後、インストールカーネルの読み込みが開始されます。
5. 次のいずれかの手順を参照して、インストールを完了します。
 - RHEL 4.7 の場合は、[32 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール」](#)の手順 5 を参照してください。
 - RHEL 5.3 の場合は、[35 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール」](#)の手順 5 を参照してください。

RHEL インストール後の作業

RHEL のインストールが完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要な場合は、使用しているシステムに該当する作業を実行します。

- [41 ページの「追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール」](#)
- [41 ページの「Wake On LAN オプションの有効化」](#)

追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール

表 3-2 では、使用しているシステムにインストールできるシステムデバイスドライバを示します。この表を参照して、使用しているシステムにインストールする必要があるドライバがあるかどうかを判断します。

表 3-2 追加する RHEL ドライバ

ハードウェアデバイス	必要なデバイスドライバ	指示書	ドライバをダウンロードするサイト
Sun Dual-Port 4X PCI-Express Infiniband ホストチャンネルアダプタ X1236A-Z (PCIe)	Mellanox: Infiniband ドライバ	インストール手順については、Readme ファイルを参照してください。	http://www.mellanox.com/content/pages.php?pg=products_dyn&product_family=26&menu_section=34
Sun PCI Express 4x Infiniband アダプタ X4217A-Z (PCIe)	Mellanox: Infiniband ドライバ	Readme ファイルは、Mellanox のドライバダウンロードサイトで入手できます。	

Wake On LAN オプションの有効化

オペレーティングシステムのインストール後、BIOS 設定ユーティリティで Wake On LAN (WOL) オプションを使用可能にすることができます。この機能により、ネットワーク上の別の位置からサーバーに電源を入れることができます。WOL を使用可能にするための要件については、『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』の「Wake On LAN」を参照してください。

第4章

VMware のインストール

この章では、次のソフトウェアのインストールに必要な手順を説明します。

- VMware ESX 3.5 Update 4 (または以降のリリース)
- VMware ESXi 3.5 Update 4 (または以降のリリース)

この章では、特に、VMware サービスコンソール用のネットワークインタフェースカード (network interface card、NIC) の選択について説明します。

注 – VMware ESX 3.5 は VMware ESX Server 3.5 と呼ばれていました。また、VMware ESXi 3.5 は VMware ESX Server 3i バージョン 3.5 と呼ばれていました。

この章では、次の項目について説明します。

- [44 ページの「VMware サービスコンソール用のネットワークインタフェース接続の計画」](#)
- [45 ページの「VMware ESX または ESXi のインストール」](#)
 - [46 ページの「作業を開始する前に」](#)
 - [46 ページの「VMware ESX または ESXi のインストール」](#)

VMware サービスコンソール用のネットワークインタフェース接続の計画

VMware のサービスコンソールおよび管理インタフェースは、使用するネットワークインタフェースによって異なります。VMware ソフトウェアのインストールでは、使用しているネットワークインタフェースを、ホスト管理用のサービスコンソールと関連付ける必要があります。

VMware の設定プロセスでは、使用しているサーバーに搭載されている NIC が自動的に検出され、「ネットワーク構成 (Network Configuration)」ダイアログに表示されます。このダイアログで、VMware サービスコンソール (vmnic0) に対して使用するネットワークインタフェースを指定する必要があります。図 4-1 および図 4-2 を参照してください。

図 4-1 VMware ESX のインストール – ネットワークインタフェースの例

ESX Server 3.5

Network Configuration
Select and configure the network interface card that is used for console communication.

Network Interface Card
Device: 1:0:0 - lgb - Intel(R) 82575EB Gigabit Network Connection

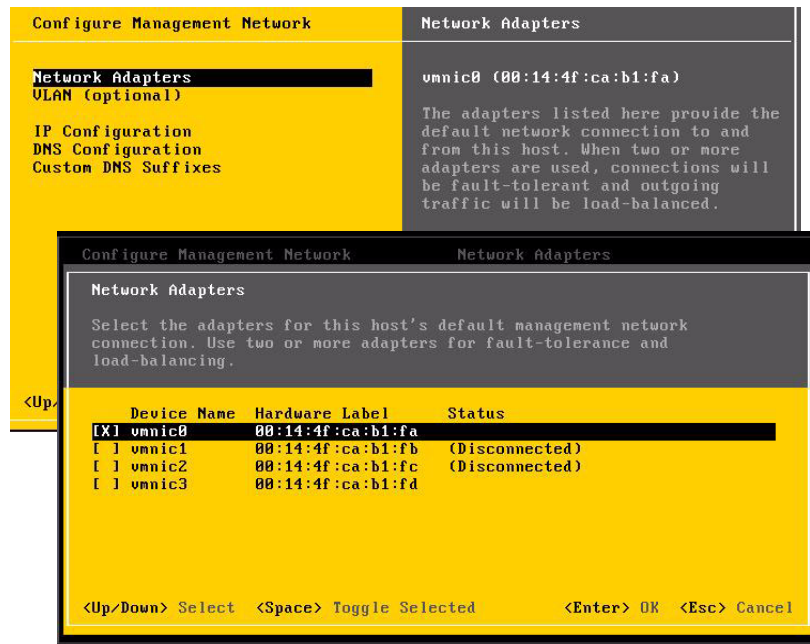
Network Address and Host Name
 Set automatically using DHCP
 Use the following network information:
IP Address: [][][][]
Subnet mask: [][][][]
Gateway: [][][][]
Primary DNS: [][][][]
Secondary DNS: [][][][]
Host name: localhost.localdomain Enter a fully qualified host name (e.g. host.vmware.com)

VLAN Settings
VLAN ID: [] (Leave blank if you are unsure whether your network requires a VLAN ID)

Create a default network for virtual machines

Back Next Cancel

図 4-2 VMware ESXi のインストール – ネットワークインタフェースの例



使用しているシステムに複数の NIC が搭載されている場合は、NIC と物理ポートとを関連付けるのが難しい場合があります。PCI バスのラベルを NIC 上の物理ポートと対応付ける方法を確認するには、67 ページの付録 A 「ネットワークインタフェースカードの PCI バス番号と物理ネットワークポートとの対応付け」を参照してください。

VMware ESX または ESXi のインストール

次の手順では、ローカルまたは遠隔のインストール用メディアから VMware (ESX または ESXi) をインストールする方法を説明します。ここでは、次のいずれかのソースから VMware インストール用メディアをすでに起動していることを前提にしています。

- VMware ESX または ESXi 3.5 Update 4 の CD または DVD セット (内蔵または外部 CD/DVD)
- VMware ESX または ESXi 3.5 Update 4 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

作業を開始する前に

インストール開始の前に、次の要件が満たされていなければなりません。

- オペレーティングシステムをインストールするために準備すべき事柄がすべて満たされていなければなりません。これらの準備すべき事柄については、[4 ページの「OS のインストールで準備すべき事柄」](#)を参照してください。
- インストール開始の前に、インストール方法 (たとえば、コンソール、起動メディア、インストール先) を選択して確立しておく必要があります。これらの設定の要件については、[6 ページの「インストール方法」](#)を参照してください。
- VMware サービスコンソールを管理するサーバーへのネットワーク接続が確立していることを確認します。詳細は、[44 ページの「VMware サービスコンソール用のネットワークインタフェース接続の計画」](#)を参照してください。
- VMware ESX または ESXi の詳しいインストール方法については、次の Web サイトにある VMware ESX または ESXi のマニュアルを参照してください。

http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html

▼ VMware ESX または ESXi のインストール

1. インストール用メディアを起動できることを確認します。

たとえば、次のように操作します。

- **CD/DVD 配布メディアを使用する場合。** ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに VMware 3.5 配布メディアの起動ディスク (「1」のラベルが付いた CD または単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージを使用できることと、起動ディスクイメージ (「1」のラベルが付いた CD または DVD) が ILOM 遠隔コンソールアプリケーションの「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」で選択されていることを確認します。

インストール用メディアの設定方法については、[8 ページの「OS インストール実行のための起動メディアオプション」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように操作します。

- **ILOM Web インタフェースを使用する場合、** 「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」の順に選択し、次に「Host action」リストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーを使用する場合、** サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で F8 キーを押して、VMware のインストールで一時的に使用する起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。

4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスの種類、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式を取ります。

数秒後、VMware インストールのスプラッシュ画面が表示されます。

5. VMware のインストールを実行します。

インストールの実行中は、ESX または ESXi 用の VMware インストールマニュアルを参照してください。詳細は、次の Web サイトを参照してください。

http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html

VMware のインストールが完了すると、システムが再起動し、VMware サービスコンソールを設定するための設定ダイアログが表示されます。

6. ESX の「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログまたは ESXi の「ネットワーク管理の設定 (Configure Network Management)」ダイアログで、VMware サービスコンソールに対して使用するネットワーク接続を設定します。

VMware サービスコンソールに対するネットワークインタフェース設定の選択については、[44 ページの「VMware サービスコンソール用のネットワークインタフェース接続の計画」](#)を参照してください。

7. 必要に応じて、最新のアップデートおよびパッチを使用して ESX または ESXi サーバソフトウェアを更新します。

詳細は、次の Web サイトを参照してください。

http://www.vmware.com/download/vi/vi3_patches.html

第5章

Solaris 10 のインストール

この章では、Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーへの Solaris 10 10/08 オペレーティングシステム (Solaris 10 OS) のインストールについて説明します。

この章では、次の項目について説明します。

- [50 ページの「Solaris 10 インストールの作業マップ」](#)
- [51 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール」](#)
- [58 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール」](#)
- [65 ページの「Solaris インストール後の作業」](#)

インストール済みの Solaris 10 OS イメージの設定方法については、『Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバー設置マニュアル』(802-7804-10) の設定手順を参照してください。

Solaris 10 インストールの作業マップ

表 5-1 を参照して、一連の作業として定義されているインストールプロセスをあらかじめ確認します。この表では、必要な作業を特定して説明し、作業実行手順の参照先を示します。

表 5-1 Solaris 10 インストールの作業マップ

手順	作業	説明	参照先
1	インストールで準備すべき事柄を確認する。	Sun Fire X4170、X4270、または X4275 サーバーへのオペレーティングシステムインストールについて該当する要件がすべて満たされていることを確認します。	• 4 ページの表 1-2 「OS のインストールで準備すべき事柄」
2	インストール方法を選択する。	使用しているインフラストラクチャーの要件を満たすインストール方法を評価して選択します。	• 6 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認する。	オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	• 11 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	Solaris 10 10/08 のインストール用メディアを入手する。	Solaris 10 OS に付属している、Solaris OS をインストールするために必要な CD および DVD メディアやマニュアルには、SPARC プラットフォーム版と x86 プラットフォーム版があります。 Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの場合、x86 プラットフォーム用のメディアを使用してください。	• Solaris 10 10/08 のメディアは、次の Web サイトでダウンロードまたは注文できます。 http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp

表 5-1 Solaris 10 インストールの作業マップ (続き)

手順	作業	説明	参照先
5	Solaris 10 10/08 OS のインストールを実行する。	この章のインストール手順では、インストール用メディアを起動して Solaris インストールプログラムを立ち上げるための最初の手順について説明します。 Solaris 10 10/08 インストールの詳細情報については、『Solaris 10 10/08 インストールガイド』(820-6043)を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> 51 ページの「ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール」 または <ul style="list-style-type: none"> 58 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール」
6	インストール後、必要に応じて、ドライバをインストールする。	使用しているシステムをサポートするのに必要なデバイスドライバが Solaris オペレーティングシステムに含まれていない場合は、デバイスドライバを追加でインストールします。	<ul style="list-style-type: none"> 65 ページの「追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール」
7	OS のインストール後、必要に応じて、パッチをインストールする。	必要な場合は、使用しているシステムに関する重要な Solaris パッチをインストールします。Solaris パッチには、新機能、機能の強化、および既知の問題に対する修正が含まれていることがあります。	<ul style="list-style-type: none"> 66 ページの「重要な Solaris パッチのインストール」

ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたは遠隔メディアから Solaris オペレーティングシステムのインストールプログラムを起動する方法を説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストール用メディアをすでに起動していることを前提としています。

- Solaris 10 10/08 (または以降のリリース) の CD または DVD セット (内蔵または外部 CD/DVD)
- Solaris 10 10/08 (または以降のリリース) の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – インストール用メディアを PXE 環境から起動する場合の手順については 58 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール」を参照してください。

作業を開始する前に

インストール開始の前に、次の要件が満たされていなければなりません。

- オペレーティングシステムをインストールするために準備すべき事柄がすべて満たされていなければなりません。これらの準備すべき事柄については、[4 ページの表 1-2「OS のインストールで準備すべき事柄」](#)を参照してください。
- インストール開始の前に、インストール方法 (たとえば、コンソール、起動メディア、インストール先) を選択して確立しておく必要があります。これらの設定の要件については、[6 ページの「インストール方法」](#)を参照してください。

次に説明する手順は、インストール用メディアを起動し Solaris インストールプログラムを立ち上げるための最初の手順です。Solaris 10 インストールの詳細情報については、『Solaris 0544 Installation Guide: Basic Installations』(817-054) を参照してください。

この手順の完了後、この章で後述する、インストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細については、[65 ページの「Solaris インストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール

1. インストール用メディアを起動できることを確認します。

注 – Sun Fire X4275 サーバーの場合、フロントパネルに CD/DVD-ROM ドライブも USB コネクタもないので、ILOM 遠隔コンソールを使用して、遠隔ストレージデバイスから起動メディアをリダイレクトしてください。手順については、[8 ページの表 1-4「OS インストール実行のための起動メディアオプション」](#)の「遠隔起動メディア」を参照してください。

- **Distribution CD/DVD を使用する場合。** ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに Solaris 10 ディストリビューションメディア (「1」のラベルが付いた CD または単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージを使用する場合。** ISO イメージを使用できることと、Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーションが最初の ISO イメージの位置を認識していることを確認します。

インストール用メディアの設定方法については、[8 ページの表 1-4「OS インストール実行のための起動メディアオプション」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェースを使用する場合**、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーを使用する場合**、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI を使用する場合**、次のように入力します。
reset /SYS

BIOS 画面が表示されます。

```
www.ami.com American Megatrends Sun microsystems®
AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/19/08 15:40:21 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.30.00
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number: 0000000000
CPU : Genuine Intel(R) CPU @ 0000 @ 2.67GHz
Speed : 2.66 GHz Count : 16

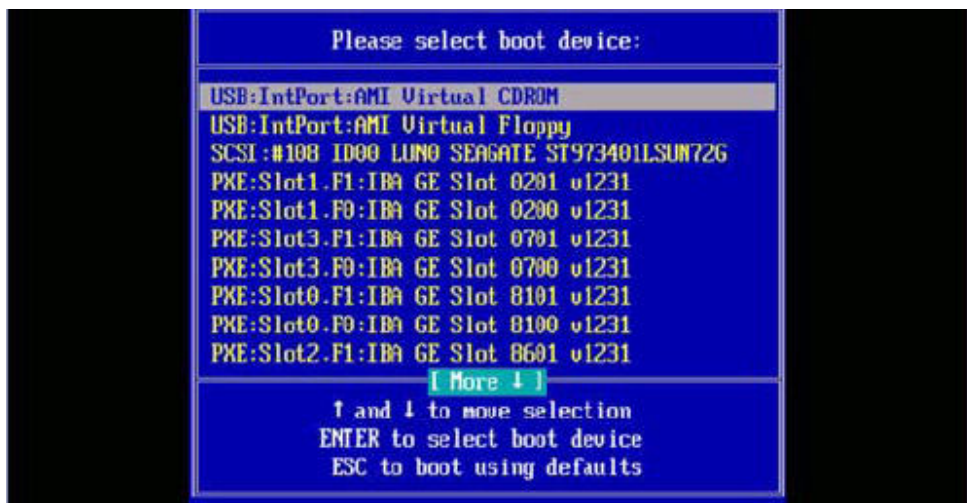
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
MPI Operational Speed at : 6.4GT/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
54-3047-009999-00101111-111908-TYLSBURG-3AB0N030-V2KC 6B38
```

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で F8 キーを押して、Solaris のインストールで一時的に使用する起動デバイスを指定します。

「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。



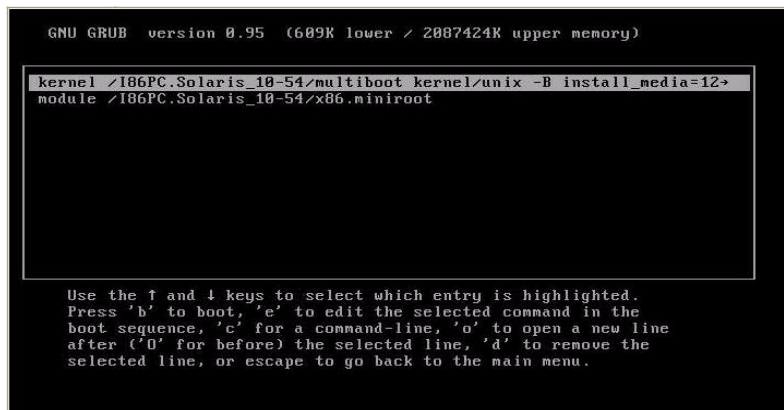
4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、最初の (一時的な) 起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択して、Enter キーを押します。

手順 3 で示す「起動デバイス (Boot Device)」メニューの例では、最初の起動デバイスとして仮想 CD-ROM デバイスが指定されています。

「起動デバイス (Boot Device)」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスの種類、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式を取ります。

注 – Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーションから Solaris のインストールを行う場合、「起動デバイス (Boot Device)」メニューで「AMI 仮想 CD-ROM (AMI Virtual CDROM)」を選択する必要があります。

「GRUB」メニューが表示されます。



5. 「GRUB」メニューで、「Solaris」を選択して、Enter キーを押します。

注 – インストール結果をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」キーを押して、シリアルコンソールをサポートするように「GRUB」メニューを編集します (-B console = ttya)。

メモリに Solaris ディスクイメージが読み込まれます。このプロセスには、数分かかることがあります。完了すると、「インストールの種類 (Install Type)」メニューが表示されます。

```
WARNING: There will be no MCA support on chip 1 core 0 strand 7 (cni_hdl_create
returned NULL)

Configuring devices.
/

1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
   (Select option 3 or 4 to install a ZFS root file system)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

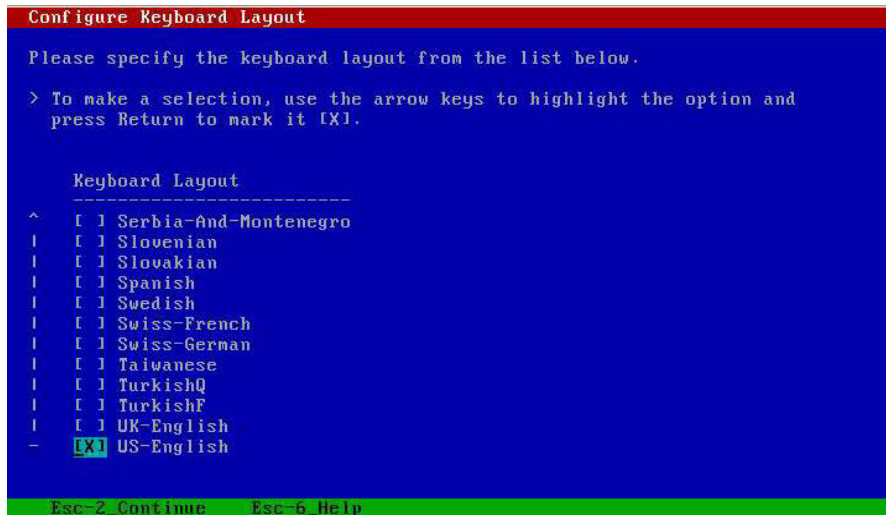
Enter the number of your choice.
Automatically continuing in 27 seconds
```

6. 「インストールの種類 (Install Type)」メニューで、インストールに使うインタフェースの種類を選択します。

- グラフィカルユーザーインタフェース (デフォルト)
「1」を入力して Enter キーを押します。
- デスクトップセッションから使用するテキストインストーラ
「3」を入力して Enter キーを押します。
- コンソールセッションから使用するテキストインストーラ
「4」を入力して Enter キーを押します。

注 – 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインタフェースの種類により異なる場合があります。この手順の以降の説明で示される画面例は、デフォルトのグラフィカルユーザーインタフェース (Graphical User Interface、GUI) オプション (オプション 1) が選択された場合に表示される画面です。

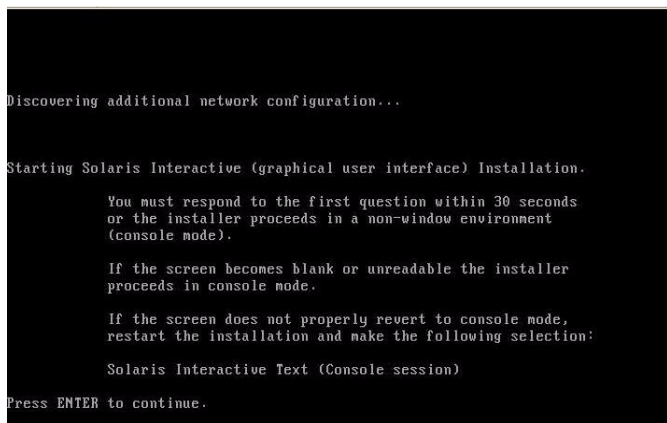
デバイスとインタフェースが検出され設定されます。キーボードが検出されると、「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューが表示されます。



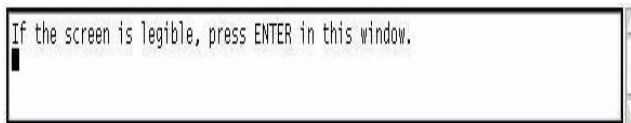
7. 「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューで、適切なキーボードレイアウトを選択して、F2 キーを押し次に進みます。

選択したキーボードレイアウトが設定され、設定ファイルが検索されます。

前の手順で GUI インストールを選択した場合、次の 2 つの手順 (手順 8 と手順 9) で GUI が機能していることを確認します。前の手順で GUI インタフェースを選択していない場合は、手順 10 に進みます。

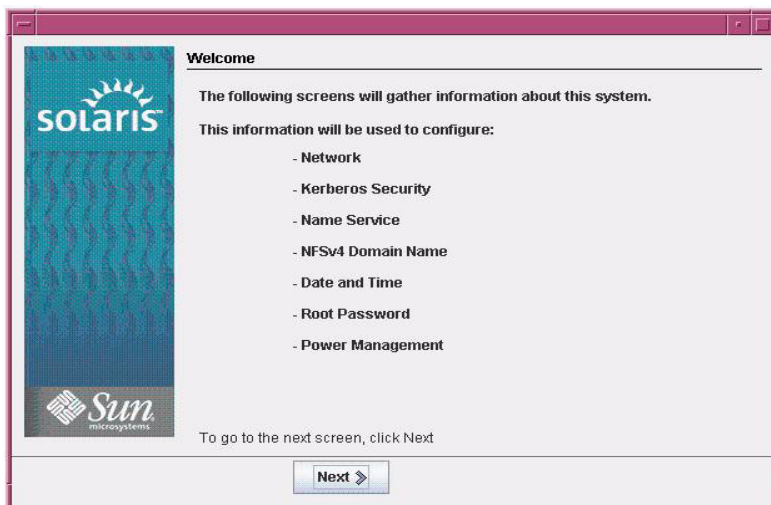


8. 「ネットワーク構成の検出と Solaris 対話式インストールの開始 (Discovering Network Configurations and Starting Solaris Interactive Installation)」画面で、Enter キーを押します。
2 番目の画面が表示されます。ここでGUI が機能していることを確認します。



9. テキストが正常に表示されていることを確認する画面で、Enter キーを押します。
「言語の選択 (Language Selection)」メニューが表示されます。
10. 「言語の選択 (Language Selection)」メニューで、選択する言語の ID 番号 (0 から 9) を入力し、Enter キーを押します。
しばらくすると、「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。

注 – 次の画面例は、GUI インストールプログラムを使用している場合の画面です。テキストベースのインストール用インタフェースを実行している場合は、テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面 (図では示しません) が表示されます。



11. 「ようこそ (Welcome)」画面で、「次へ (Next)」をクリックして、インストールを開始します。

Solaris インストールプログラムにより、いくつかの設定画面が表示されます。

12. 標準的な Solaris のインストールを続行します。必要な場合は、Solaris のマニュアルを参照して詳細情報を確認します。

インストールが完了すると、システムが自動的に再起動し (前の手順の設定画面でこのオプションを選択した場合)、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 – インストールの完了時にシステムが自動で再起動するように設定していない場合は、手動で再起動する必要があります。

13. [65 ページの「Solaris インストール後の作業」](#)に進み、インストール後の Solaris 設定作業を実行します。

PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール

次の手順では、PXE ネットワーク環境から Solaris オペレーティングシステムのインストールを起動する方法について説明します。ここでは、次のいずれかのソースからインストール用メディアをすでに起動していることを前提にしています。

- Solaris 10 10/08 CD または DVD セット (内部または外部 CD/DVD)
- Solaris 10 10/08 の ISO DVD イメージまたは Solaris JumpStart™ イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – JumpStart を使用すると、複数のサーバー上で最初に Solaris オペレーティングシステムを設定するための手動作業の一部またはほとんどが不要になります。

JumpStart イメージの使用については、『Solaris 10 Installation Guide: Custom JumpStart and Advanced Installations』(817-5506) を参照してください。

作業を開始する前に

PXE を使用した Solaris 10 インストールを開始する前に、次の要件が満たされていないければなりません。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストール用メディアを起動する場合は、次の作業を完了しておく必要があります。
 - PXE 起動インストールサーバーを、インストールをエクスポートできるように設定する。

注 – 複数の DHCP サーバーを含むサブネットでは、PXE ネットワーク起動は正常に機能しません。このため、インストール対象のクライアントシステムを含むサブネットでは、ただ 1 つの DHCP サーバーを設定する必要があります。

- Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーの MAC ネットワークポートアドレスを、PXE 起動インストールサーバーのクライアントシステムとして設定する。

ネットワークからの Solaris 10 の設定およびインストールについては、『Solaris 10 Installation Guide: Network Installations』(817-0544) を参照してください。

- 使用するインストールメディアソースが JumpStart インストールイメージの場合は、イメージを正しく準備してインストールできるようにしておく必要があります。このガイドでは、JumpStart インストールの正しい設定と配備の方法については説明しません。

Solaris JumpStart イメージの作成については、『Solaris 10 Installation Guide: Custom JumpStart and Advanced Installations』(817-5506) を参照してください。

次に示す手順の完了後、この章で後述するインストール後に必要な作業を確認して実行する必要があります。詳細については、[65 ページの「Solaris インストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ネットワーク経由での PXE ブートを使用した SLES 10 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が正しく設定され、Solaris インストール用メディアが PXE 起動で使用できることを確認します。

詳細は、『Solaris 10 Installation Guide: Network Installations』(817-0544) の「Planning to Install From Network」を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように入力します。

- ILOM Web インタフェースを使用する場合、「Remote Control」-->「Remote Power Control」タブの順に選択し、次に「Host action」ドロップダウンリストボックスから「Power Cycle」オプションを選択します。
- ローカルサーバーを使用する場合、サーバーのフロントパネルの電源ボタンを押して(約1秒)サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- サーバー SP の ILOM CLI を使用する場合、次のように入力します。
`reset /SYS`

BIOS 画面が表示されます。

```

American Megatrends
www.ami.com

Sun Microsystems

AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/19/08 15:40:21 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.30.00
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number: 0000000000
CPU : Genuine Intel(R) CPU e 0000 e 2.67GHz
Speed : 2.66 GHz Count : 16

Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
QPI Operational Speed at : 6.46T/s
BMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
64-3047-009999-00101111-111908-TYLSBURG-36B0N030-Y2KC
6B38

```

注 - 次のイベントはすぐに発生するため、次の手順では注意する必要があります。メッセージは短時間画面に表示されるため、メッセージを注意深く観察してください。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト (Power-On Self-Test、POST) 画面で F8 キーを押して、一時起動デバイスを指定します。

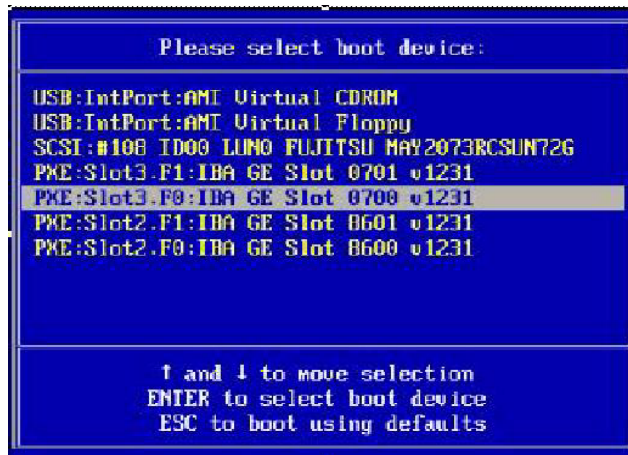
「起動デバイスを選択してください (Please Select Boot Device)」メニューが表示されます。

4. 「起動デバイス (Boot Device)」メニューで、適切な PXE 起動ポートを選択して、Enter キーを押します。

PXE 起動ポートは、使用しているネットワークインストールサーバーと通信できるように設定されている物理ネットワークポートです。

次の「起動デバイス (Boot Device)」メニューの例で表示されているオプションは、使用している「起動デバイス (Boot Device)」メニューのものとは異なる場合があります。

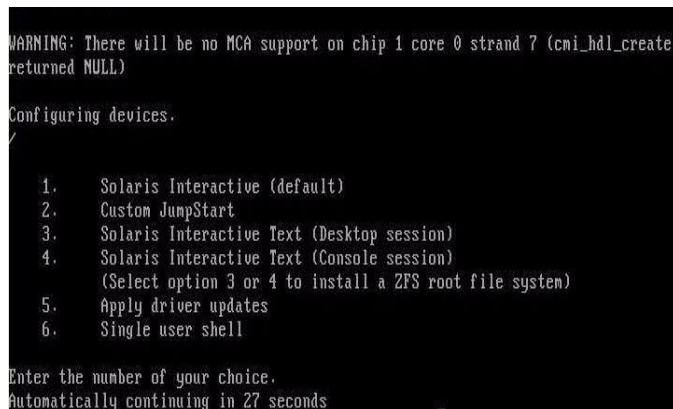
「GRUB」メニューが表示されます。



5. 「GRUB」メニューで、「Solaris」を選択して、Enter キーを押します。

注 - インストール結果をシリアルコンソールにリダイレクトする場合は、「GRUB」メニューで「e」キーを押して、シリアルコンソールをサポートするように「GRUB」メニューを編集します (-B console = ttya)。

メモリに Solaris ディスクイメージが読み込まれます。このプロセスには、数分かかることがあります。完了すると、「インストールの種類 (Install Type)」メニューが表示されます。



6. 「インストールの種類 (Install Type)」メニューで、インストールに使うインタフェースの種類を選択します。
 - グラフィカルユーザーインタフェース (デフォルト)
「1」を入力して Enter キーを押します。
 - デスクトップセッションから使用するテキストインストーラ
「3」を入力して Enter キーを押します。
 - コンソールセッションから使用するテキストインストーラ
「4」を入力して Enter キーを押します。

注 - 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインタフェースの種類により異なる場合があります。この手順の説明で示されるこれ以降の画面例はデフォルトのグラフィカルユーザーインタフェース (Graphical User Interface、GUI) オプション (オプション 1) が選択された場合に表示される画面です。

デバイスとインタフェースが検出され設定されます。キーボードが検出されると、「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューが表示されます。



7. 「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニューで、適切なキーボードレイアウトを選択して、F2 キーを押し次に進みます。
選択したキーボードレイアウトが設定され、設定ファイルが検索されます。
前の手順で GUI インストールを選択した場合、次の 2 つの手順 (手順 8 と手順 9) で GUI が機能していることを確認します。前の手順で GUI インタフェースを選択していない場合は、手順 10 に進みます。

```
Discovering additional network configuration...

Starting Solaris Interactive (graphical user interface) Installation.

    You must respond to the first question within 30 seconds
    or the installer proceeds in a non-window environment
    (console mode).

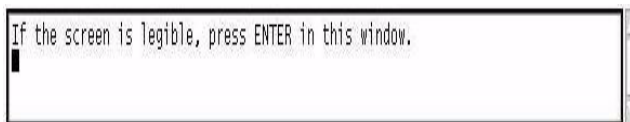
    If the screen becomes blank or unreadable the installer
    proceeds in console mode.

    If the screen does not properly revert to console mode,
    restart the installation and make the following selection:

    Solaris Interactive Text (Console session)

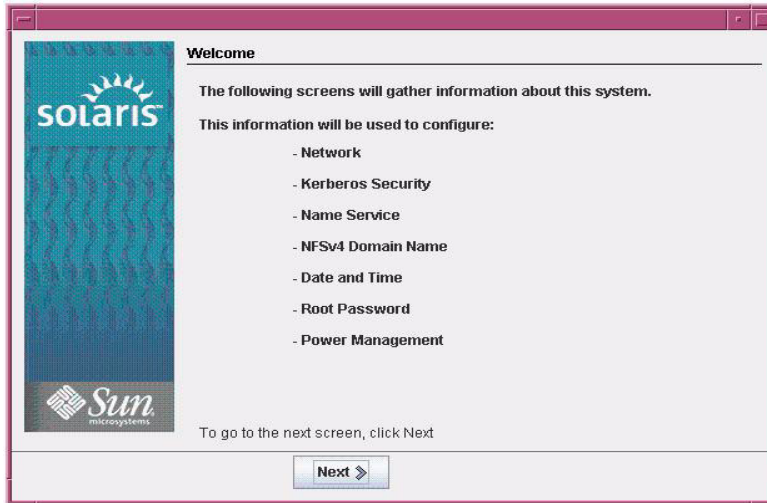
Press ENTER to continue.
```

8. 「ネットワーク構成の検出と Solaris 対話式インストールの開始 (Discovering Network Configurations and Starting Solaris Interactive Installation)」画面で、Enter キーを押します。
2 番目の画面が表示されます。ここでGUI が機能していることを確認します。



9. テキストが正常に表示されていることを確認する画面で、Enter キーを押します。
「言語の選択 (Language Selection)」メニューが表示されます。
10. 「言語の選択 (Language Selection)」メニューで、選択する言語の ID 番号 (0 から 9) を入力し、Enter キーを押します。
しばらくすると、「ようこそ (Welcome)」画面が表示されます。

注 – 次の画面例は、GUI インストールプログラムを使用している場合の画面です。テキストベースのインストール用インタフェースを実行している場合は、テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面 (図では示しません) が表示されます。



11. 「ようこそ (Welcome)」画面で、「次へ (Next)」をクリックして、インストールを開始します。

すべてのシステム情報をあらかじめ設定してある場合は、設定情報の入力はありません。一部のシステム情報があらかじめ設定されていない場合は、それらの情報を求めるいくつかの設定画面が表示されます。

12. 標準的な Solaris のインストールを続行します。必要な場合は、Solaris のマニュアルを参照して詳細情報を確認します。

インストールが完了すると、システムが自動的に再起動し (前の設定手順でこのオプションを選択した場合)、Solaris のログインプロンプトが表示されます。

注 – インストールの完了時にシステムが自動で再起動するように設定していない場合は、手動で再起動する必要があります。

13. [65 ページの「Solaris インストール後の作業」](#)に進み、インストール後の Solaris 設定作業を実行します。

Solaris インストール後の作業

Solaris のインストールと Solaris オペレーティングシステムの再起動が完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要な場合は、使用しているシステムに該当する作業を実行します。

- 65 ページの「追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール」
- 66 ページの「重要な Solaris パッチのインストール」
- 66 ページの「Wake On LAN オプションの有効化」(省略可能)
- 66 ページの「RAID 管理ソフトウェアのインストール」

追加ハードウェアサポートのためのシステムデバイスドライバのインストール

次の表では、使用しているシステムにインストールできるシステムデバイスドライバを示します。この表を参照して、使用しているシステムにインストールする必要があるドライバがあるかどうかを判断します。

表 5-2 追加する Solaris デバイスドライバ

ハードウェアデバイス	必要なドライバ	指示書	ドライバをダウンロードするサイト (URL)
Sun デュアルポート DDR IBホストチャンネルアダプタ PCIe カード	Hermon デバイスドライバ	hermon デバイスドライバは、Solaris InfiniBand (IB) Updates 3 ソフトウェアリリースに含まれています。 このデバイスドライバについては、次の Web サイトを参照してください。 http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2254/hermon-7d?a=view	http://www.sun.com/download/index.jsp?cat=Hardware%20Drivers&tab=3&subcat=InfiniBand

重要な Solaris パッチのインストール

次の表では、使用しているシステムにインストールできる重要な Solaris パッチを示します。この表を参照して、使用しているシステムにインストールする必要があるパッチがあるかどうかを判断します。

表 5-3 重要な Solaris パッチ

重要な Solaris パッチ	説明	パッチをダウンロードするサイト
138626-02	ギガビット Ethernet (igb) ドライバが、max_frame_size より大きいサイズのパッケージを送信することがあります。この既知の問題により、オンボード igb ポート経由の NFS 書き込み時にシステムがハングアップすることがあります (CR 6716686)。	www.sunsolve.sun.com
138889-02	Intel プロセッサでパフォーマンスカウンタをサポートします (CR 6661753)。	

Wake On LAN オプションの有効化

オペレーティングシステムのインストール後、BIOS 設定ユーティリティーで Wake On LAN (WOL) オプションを使用可能にすることができます。この機能により、ネットワーク上の別の位置からサーバーに電源を入れることができます。WOL を使用可能にするための要件については、『Sun Fire X4170, X4270, and X4275 Servers Service Manual』の「Wake On LAN」を参照してください。

RAID 管理ソフトウェアのインストール

使用しているサーバーに Sun StorageTek SAS RAID HBA (SG-XPCIESAS-R) が取り付けられている場合、Sun RAID 管理ソフトウェアをインストールする必要があります。これは、Tools and Drivers CD/DVD に収録されています。RAID 管理ソフトウェアをインストールしない場合、Solaris OS はディスクエラーを検出および報告できません。

Adaptec RAID Storage 管理ソフトウェアは、Tools and Drivers CD/DVD の次の位置にあります。

```
solaris/tools/raid_adaptec
```

付録 A

ネットワークインタフェースカードの PCI バス番号と物理ネットワークポートとの対応付け

この付録では、VMware サービスコンソールの設定のために適切なネットワークインタフェースカードを識別する際に役立つ情報を提供します。

PCI バス番号を、Sun Fire X4170、X4270 または X4275 サーバーに搭載されているネットワークインタフェースカードに対応付けるには、次の各表を参照してください。

- 67 ページの表 A-1 「Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのバス番号とオンボード Ethernet の対応付け」
- 68 ページの表 A-2 「Sun Fire X4170 サーバーのバス番号と X7280A-2 の対応付け」
- 68 ページの表 A-3 「Sun Fire X4170 サーバーのバス番号と X4446A-2 の対応付け」
- 68 ページの表 A-4 「Sun Fire X4270 および X4275 サーバーのバス番号と X7280A-2 の対応付け」
- 68 ページの表 A-5 「Sun Fire X4270 および X4275 サーバーのバス番号と X4446A-2 の対応付け」

表 A-1 Sun Fire X4170、X4270、および X4275 サーバーのバス番号とオンボード Ethernet の対応付け

PCI バス:デバイス:機能	ポートラベル
1:0:0	NET 0
1:0:1	NET 1
7:0:0	NET 2
7:0:1	NET 3

表 A-2 Sun Fire X4170 サーバーのバス番号と X7280A-2 の対応付け

PCI バス:デバイス:機能	PCI スロット	RJ-45 ポート
d:0:0/d:0:1	0	0/1
13:0:0/13:0:1	1	0/1
19:0:0/19:0:1	2	0/1

表 A-3 Sun Fire X4170 サーバーのバス番号と X4446A-2 の対応付け

PCI バス:デバイス:機能	PCI スロット	RJ-45 ポート
f:0:0/f:0:1/10:0:0/10:0:1	0	0/1/2/3
15:0:0/15:0:1/16:0:0/16:0:1	1	0/1/2/3
1b:0:0/1b:0:1/1c:0:0/1c:0:1	2	0/1/2/3

表 A-4 Sun Fire X4270 および X4275 サーバーのバス番号と X7280A-2 の対応付け

PCI バス:デバイス:機能	PCI スロット	RJ-45 ポート
13:0:0/13:0:1	0	0/1
21:0:0/21:0:1	1	0/1
2f:0:0/2f:0:1	2	0/1
d:0:0/d:0:1	3	0/1
1b:0:0/1b:0:1	4	0/1
29:0:0/29:0:1	5	0/1

表 A-5 Sun Fire X4270 および X4275 サーバーのバス番号と X4446A-2 の対応付け

PCI バス:デバイス:機能	PCI スロット	RJ-45 ポート
15:0:0/15:0:1/16:0:0/16:0:1	0	0/1/2/3
23:0:0/23:0:1/24:0:0/24:0:1	1	0/1/2/3
31:0:0/31:0:1/32:0:0/32:0:1	2	0/1/2/3
f:0:0/f:0:1/10:0:0/10:0:1	3	0/1/2/3
1d:0:0/1d:0:1/1e:0:0/1e:0:1	4	0/1/2/3
2b:0:0/2b:0:1/2c:0:0/2c:0:1	5	0/1/2/3

索引

A

AutoYaST
SLES OS, 22

B

BIOS

Wake On LAN オプション
システムの時刻、日付、および起動順の設定, 14
設定の表示または編集, 12
「起動 (Boot)」メニュー
アクセス, 14
「起動デバイスの優先順位 (Boot Device
Priority)」メニュー, 15
「起動設定 (Boot Settings)」メニュー, 14
出荷時のデフォルト設定, 4
電源投入時の自己診断テスト
Solaris OS, 60
電源投入時の自己診断テスト画面, 33
SLES OS, 20

C

「CD メディアのテスト (Testing CD Media)」画面
RHEL, 33

D

DHCP サーバー
推奨される数, 59
「Disk Druid を使用して手動でパーティションを
作成する (Manually Partition with Disk Druid)」
ラジオボタン
RHEL OS, 34

G

GRUB メニュー
Solaris OS, 55, 61

I

ILOM CLI
RHEL, 33
ILOM Web インタフェース, 35
RHEL, 32
RHEL OS, 39
SLES OS, 20, 23
ILOM webインタフェース, 12

J

JumpStart
Solaris OS, 58

M

MAC ネットワークポートアドレス, 59

O

OS インストール先
コンパクトフラッシュカード, 11
ファイバチャネルストレージエリアネット
ワーク, 11
設定要件, 10
OS インストールターゲット, 10
OS のインストール
ベンダーのマニュアル, 5
準備すべき事柄, 4
OS のマニュアル
Web サイト, 5

- P**
- PXE インストール
 - RHEL OS, 39
 - SLES OS, 23
 - Solaris 10 OS, 59
 - Solaris OS, 58
 - PXE ベースのオペレーティングシステム, 10
 - PXE 起動インタフェースカード, 10
- R**
- Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面, 33
 - 「Red Hat へようこそ (Red Hat Welcome)」画面, 33
 - RedHat Enterprise Linux
 - 「RHEL OS」を参照
 - RHEL OS
 - 「Disk Druid を使用して手動でパーティションを作成する (Manually Partition with Disk Druid)」ラジオボタン, 34
 - ILOM Web インタフェース, 39
 - KickStart イメージ, 10
 - PXE ネットワークインストール, 38
 - 一時起動デバイス, 40
 - インストール後の作業, 35, 40
 - インストールチェックリスト, 30
 - インストール方法, 31
 - インストール用メディア, 32
 - インストール要件, 30
 - インタフェースオプション, 32
 - 「キーボード設定 (Keyboard Configuration)」画面, 34
 - サーバーの電源リセット
 - サポートされるインタフェース, 32, 35
 - システムのデバイスドライバ, 41
 - 自動アップデート, 35, 38
 - 登録, 30
 - 「ディスクパーティション設定 (Disk Partitioning Setup)」画面, 34
 - デバイス文字列, 33
 - ドライブのパーティション作成, 32
 - バグ修正, 35
 - ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用したインストール, 31
 - 起動ディスクイメージ, 32
 - 使用可能への切り替え
 - Wake On LAN オプション, 41
- RHEL OS のインストール**
- 一時起動デバイスの指定, 33
 - 標準的な対話式インストール, 33
- S**
- SAN**
- 「ファイバチャネルストレージエリアネットワーク」を参照
- SLES**
- ILOM Web インタフェース, 20, 23
- SLES OS**
- AutoYaST, 22
 - AutoYaST イメージ, 10
 - BIOS の設定, 14
 - ISO イメージ, 20
 - PXE インストール起動デバイス, 24
 - PXE ネットワークインストール, 22
 - PXE 起動, 23
 - インストールチェックリスト, 18
 - インストール要件, 18
 - サーバーの電源リセット
 - サポートされるインタフェース, 20, 23
 - システムの時刻、日付、および起動順の設定, 14
 - 自動アップデート
 - 登録, 18
 - ローカルメディアまたは遠隔メディアを使用したインストール, 19
 - デバイス文字列, 21
 - 「起動デバイス (Boot Device)」メニュー, 21
 - 更新, 25
 - 自動インストールの準備, 22
- SLES OS のインストール**
- Sun Installation Assistant (SIA), 17
 - 「SUSE Linux Novell 使用許諾契約 (SUSE Linux Novell License Agreement)」画面, 24
 - 「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面, 24
 - 「YaST インストール設定 (YaST Installation Settings)」画面, 24
 - YaST オンラインアップデート, 26
 - 「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面, 24
 - インストール後の作業, 25
 - システムのデバイスドライバ, 27
 - 「起動デバイス (Boot Device)」メニュー, 24

- Solaris 10 オペレーティングシステム
 - 「Solaris 10」を参照
- Solaris OS
 - BIOS
 - 電源投入時の自己診断テスト, 60
 - GRUB メニュー, 61
 - ILOM Web インタフェース, 53, 60
 - JumpStart, 58
 - JumpStart イメージ, 10, 58, 59
 - Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーション, 54
 - 「Welcome (ようこそ)」画面, 58, 63
 - インストール
 - GRUB メニュー, 55
 - インストール後の作業, 65
 - 「インストールの種類 (Install Type)」メニュー, 55, 62
 - 「キーボードレイアウトの設定 (Configure Keyboard Layout)」メニュー, 55, 62
 - サーバーの電源リセット
 - サポートされるインタフェース, 53, 60
 - システムのデバイスドライバ, 65
 - テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面, 57, 63
 - デバイス文字列, 54
 - 「ネットワーク構成の検出 (Discovering Network Configurations)」画面, 57, 63
 - パッチ, 66
 - ローカルメディアまたは遠隔メディアの使用, 51
 - 「起動デバイス (Boot Device)」メニュー, 54, 60
 - 「言語の選択 (Language Selection)」メニュー, 57, 63
 - 使用可能への切り替え
 - BIOS 設定ユーティリティ, 66
- Solaris OS のインストール
 - PXE ベースのネットワークからの遠隔メディアの使用, 58
 - Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーション, 52
 - サポートされるインタフェースの種類, 55
 - 自動再起動, 64
- SP
 - IP アドレス, 7
- Sun Fire X4275 サーバー
 - 推奨されるインストール方法, 32
- Sun ILOM 遠隔コンソールアプリケーション
 - RHEL OS, 32
 - SLES OS, 20
 - Solaris OS のインストール, 52, 54
- Sun のサポート, ix
- SUSE Linux Enterprise Server
 - 「SLES OS」を参照
- T
 - 「Tools and Drivers」CD/DVD
 - ダウンロード
 - Web サイトの URL, 5
- U
 - UNIX コマンド, x
- V
 - VMware OS
 - ESX の「ネットワーク設定 (Network Configuration)」ダイアログ, 47
 - ESXi の「ネットワーク管理の設定 (Configure Network Management)」ダイアログ, 47
 - アップデートおよびパッチ, 47
 - インストール, 45
 - サーバー電源のリセット, 46
 - サービスコンソール, 44
 - 設定, 67
 - サービスコンソールの設定, 67
 - ネットワークインタフェースカード, 67
 - バス番号の対応付け, 67
 - 遠隔コンソールからのインストール, 45
 - 管理インタフェース, 44
 - 「起動デバイス (Boot Device)」メニュー, 47
- W
 - Web サイト
 - Sun 以外の, x
 - 「Welcome (ようこそ)」画面, 58, 63
 - Windows OS
 - RIS または WDS イメージ, 10
 - WOL オプション, 41, 66
 - SLES OS, 27
 - 「WOL オプション」を参照
 - BIOS 設定ユーティリティ

Y

YaST ユーティリティ, 26

い

一時起動デバイス
RHEL OS, 40

インストール後の作業
RHEL OS, 40, 35
Solaris OS, 65

インストール済みの Solaris OS, 3

インストールの作業マップ
Red Hat Enterprise Linux, 30
Solaris 10, 50
SUSE Linux Enterprise Server, 18

「インストールの種類 (Install Type)」メニュー
Solaris OS, 55, 62

インストール方法, 6

え

遠隔起動メディア
設定手順, 9

遠隔コンソールアプリケーションを使用したインストール
VMware, 45

遠隔コンソールインストール
VMware, 45

遠隔メディア
サポート対象ソース, 9

お

オペレーティングシステム
サポート対象, 2

オペレーティングシステムのインストール
VMware OS, 45

き

「キーボードレイアウトの設定 (Configure
Keyboard Layout)」メニュー
Solaris OS, 55, 62

「キーボード設定 (Keyboard Configuration)」画面
RHEL OS, 34

起動デバイス, 一時(Solaris), 11

「起動デバイス (Boot Device)」メニュー
RHEL, 33
SLES OS, 21
Solaris OS, 54, 60

起動メディア

Sun Fire X4275 サーバーに対する Sun ILOM 遠
隔コンソールの使用, 8
設定手順, 8

け

「言語の選択 (Language Selection)」メニュー
Solaris OS, 57, 63

こ

コンソール
サポート対象, 6

さ

サーバー
電源のリセット, 20, 32, 46, 12

サポート対象の, 10

し

システムのデバイスドライバ
RHEL OS, 41
Solaris OS, 65

自動アップデート
RHEL OS, 35, 38

自動アップデートのための登録
RHEL OS, 30
SLES OS, 18

使用可能への切り替え
Wake On LAN オプション
「WOL オプション」を参照

せ

製品アップデート
ダウンロード, vii

て

「ディスクパーティション設定 (Disk Partitioning
Setup)」画面
RHEL OS, 34

テキストベースの「ようこそ (Welcome)」画面, 63

デバイス文字列
RHEL OS, 33
SLES OS, 21
Solaris OS, 54

と

トレーニング
入手場所, ix

ね

「ネットワーク構成の検出 (Discovering Network Configurations)」画面
Solaris OS, 57, 63

は

パッチ
Solaris OS, 66

ふ

ファイアウォール, 26
ファイバチャネルストレージエリアネットワーク, 11
プロキシサーバー, 26

ま

マニュアル, ix

り

リモートコンソール
設定手順, 7

ろ

ローカルドライブ
パーティション作成, 3
ローカル起動メディア
設定手順, 8

